

1 9 記 録



令和7年 市制施行70周年を迎える

228 歴 代 市 長

秘書課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	30. 2. 5 昭 (	中 村 新 治	11	2. 1. 31 平 (	柏 木 幹 雄
2	32. 2. 16 32. 3. 17 昭 (	清 水 虎 吉	12	6. 1. 30 6. 1. 31 平 (	二 宮 忠 夫
3	36. 3. 16 36. 3. 17 昭 (	加 藤 喜太郎	13	10. 1. 30 10. 1. 31 平 (	二 宮 忠 夫
4	40. 3. 16 40. 3. 17 昭 (	加 藤 喜太郎	14	14. 1. 30 14. 1. 31 平 (	二 宮 忠 夫
5	44. 3. 16 44. 3. 17 昭 (	栗 原 藤 次	15	18. 1. 30 18. 1. 31 平 (	古 谷 義 幸
6	48. 3. 16 48. 3. 17 昭 (	栗 原 藤 次	16	22. 1. 30 22. 1. 31 平 (	古 谷 義 幸
7	52. 3. 16 52. 3. 17 昭 (	栗 原 藤 次	17	26. 1. 30 26. 1. 31 平 (	古 谷 義 幸
8	56. 3. 16 56. 3. 17 昭 (	栗 原 藤 次	18	30. 1. 30 30. 1. 31 (	高 橋 昌 和
9	56. 12. 13 57. 1. 31 昭 (	柏 木 幹 雄	19	令 4. 1. 30 4. 1. 31 令 (	高 橋 昌 和
10	61. 1. 30 昭 61. 1. 31 (平 2. 1. 30	柏 木 幹 雄		8. 1. 30 8. 1. 31 令 (	高 橋 昌 和

229 歴 代 助 役

秘書課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	30. 5. 23 昭 (	小 島 栄 蔵	9	56. 9. 22 昭 (	柏 木 幹 雄
2	32. 6. 10 33. 7. 1 昭 (	小 島 栄 蔵	10	57. 1. 20 57. 4. 1 昭 (	福 住 博 一
3	36. 4. 4 37. 2. 6 昭 (	三 浦 辰之助	11	61. 3. 31 昭 61. 4. 1 (	福 住 博 一
4	41. 2. 5 41. 2. 6 昭 (	三 浦 辰之助	12	平 2. 3. 31 2. 4. 1 平 (	二 宮 忠 夫
5	41. 5. 4 42. 12. 14 昭 (	古 屋 伊久雄	13	5. 11. 19 6. 4. 1 平 (	北 村 博 史
6	44. 3. 31 44. 9. 20 昭 (	清 水 虎 吉	14	10. 3. 31 10. 7. 1 平 (	守 屋 隆
7	48. 9. 19 48. 9. 20 昭 (	清 水 虎 吉	15	14. 6. 30 14. 7. 1 平 (	森 谷 四 郎
8	52. 9. 19 52. 9. 22 昭 (	柏 木 幹 雄	16	18. 6. 30 18. 8. 18 平 (	中 村 良 之
	56. 9. 21			19. 3. 31 ※平 19.4.1 から副市長	

230 歴 代 収 入 役

秘書課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	昭 (30. 4. 1)	武 平 吉	9	昭 (60. 10. 13)	平 井 稔
2	昭 (34. 3. 31) 昭 (34. 4. 1)	武 平 吉	10	昭 (63. 3. 31) 昭 (63. 9. 24)	宮 永 克 巳
3	昭 (38. 3. 31) 昭 (38. 4. 1)	武 平 吉	11	平 (4. 9. 23) 平 (4. 9. 24)	宮 永 克 巳
4	昭 (39. 12. 31) 昭 (40. 4. 16)	大 森 信 孝	12	平 (6. 3. 31) 平 (6. 4. 1)	山 口 英 夫
5	昭 (44. 3. 16) 昭 (44. 9. 20)	高 橋 眞	13	平 (10. 3. 31) 平 (10. 4. 1)	森 谷 四 郎
6	昭 (48. 9. 19) 昭 (48. 9. 20)	高 橋 眞	14	平 (14. 3. 31) 平 (14. 4. 1)	片 岡 英太郎
7	昭 (52. 9. 19) 昭 (52. 9. 22)	高 橋 眞	15	平 (16. 5. 19) 平 (16. 10. 1)	中 村 良 之
8	昭 (56. 9. 21) 昭 (56. 10. 13) 昭 (60. 10. 12)	平 井 稔		平成19年3月31日地方自治法の改正により廃止	

231 歴 代 副 市 長

秘書課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	平 (19. 4. 1) 平 (22. 8. 17) 平 (20. 4. 1)	中 村 良 之	8	平 (28. 4. 1) 令 (2. 3. 31) 平 (30. 10. 4)	宮 村 慶 和
2	平 (24. 3. 31) 平 (22. 8. 18)	高 橋 生志雄	9	令 (4. 10. 3) 令 (2. 9. 1)	高 村 栄 二
3	平 (23. 3. 31) 平 (23. 4. 1)	中 村 良 之	10	令 (6. 8. 31) 令 (4. 10. 5)	内 田 賢 司
4	平 (27. 3. 31) 平 (24. 4. 1)	金 丸 美 彦	11	令 (6. 9. 1)	高 橋 正 道
5	平 (26. 1. 30) 平 (26. 4. 1)	高 橋 生志雄	12	令 ()	石 原 学
6	平 (30. 1. 30) 平 (27. 4. 1)	八 木 優 一			
7	平 (28. 3. 31)	金 丸 美 彦			

(注) 平成20年4月1日より副市長2人制開始

232 歴 代 議 長

議事政策課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	30. 1. 7 昭 (	青 木 峰 雄	21	48. 9. 17 昭 (	仲 原 恵 作
2	30. 6. 18 30. 6. 18 昭 (	仲 原 正 作	22	49. 9. 18 49. 9. 18 昭 (	関 八々雄
3	30. 7. 31 30. 9. 19 昭 (	小 泉 光 三	23	50. 9. 10 50. 9. 19 昭 (	府 川 泰 道
4	31. 9. 17 31. 9. 17 昭 (	小 泉 光 三	24	51. 9. 20 51. 9. 20 昭 (	府 川 泰 道
5	32. 9. 24 32. 9. 26 昭 (	青 木 吉 長	25	52. 9. 21 52. 9. 21 昭 (	高 橋 卯 七
6	33. 9. 18 33. 9. 19 昭 (	青 木 吉 長	26	53. 9. 12 53. 9. 12 昭 (	秋 山 喜代次
7	34. 9. 10 34. 9. 18 昭 (	青 木 吉 長	27	54. 9. 10 54. 9. 18 昭 (	杉 山 重 雄
8	35. 9. 26 35. 9. 26 昭 (	青 木 吉 長	28	55. 9. 25 55. 9. 25 昭 (	飯 塚 義 一
9	36. 9. 25 36. 9. 25 昭 (	奥 津 英 一	29	56. 9. 25 56. 9. 25 昭 (	秋 山 喜代次
10	37. 9. 10 37. 9. 10 昭 (	奥 津 英 一	30	57. 9. 22 57. 9. 22 昭 (	栗 原 彰
11	38. 9. 10 38. 9. 18 昭 (	大 津 茂 雄	31	58. 9. 10 58. 9. 20 昭 (	浅 見 武
12	39. 9. 17 39. 9. 17 昭 (	大 津 茂 雄	32	59. 9. 10 59. 9. 10 昭 (	山 口 寅 次
13	40. 9. 13 40. 9. 13 昭 (	関 口 澄	33	60. 9. 11 60. 9. 11 昭 (	綾 部 喜代治
14	41. 9. 13 41. 9. 17 昭 (	小 島 栄 蔵	34	61. 9. 25 61. 9. 25 昭 (	池 田 卯太郎
15	42. 9. 10 42. 9. 19 昭 (	諸 星 孝 吉	35	62. 9. 10 62. 9. 18 昭 (	草 山 忠 文
16	43. 9. 17 43. 9. 17 昭 (	奥 津 英 一	36	63. 9. 5 63. 9. 5 (	古 谷 義 幸
17	44. 9. 17 44. 9. 19 昭 (	青 木 吉 長	37	平 元. 9. 11 元. 9. 11 平 (	相 原 富 男
18	45. 9. 17 45. 9. 18 昭 (	久保寺 恵太郎	38	2. 9. 5 2. 9. 5 平 (	高 橋 文 雄
19	46. 9. 10 46. 9. 20 昭 (	仲 原 恵 作	39	3. 9. 10 3. 9. 19 平 (	諸 星 光
20	47. 9. 18 47. 9. 18 昭 (	仲 原 恵 作	40	4. 9. 9 4. 9. 9 平 (	柏 木 義 晴
	48. 9. 17			5. 9. 8	

232 歴 代 議 長 （ つ づ き ）

議事政策課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
41	平 (5. 9. 8)	北 村 弥一郎	60	平 (24. 9. 6)	大 野 祐 司
42	平 (6. 9. 7)	原 米 司	61	平 (25. 9. 4)	村 上 茂
43	平 (6. 9. 7)		62	平 (25. 9. 4)	
44	平 (7. 9. 10)	中 山 英 征	63	平 (26. 9. 3)	諸 星 光
45	平 (7. 9. 18)		64	平 (26. 9. 3)	
46	平 (8. 9. 27)	今 井 敏	65	平 (27. 9. 10)	川 口 薫
47	平 (8. 9. 27)		66	平 (27. 9. 18)	
48	平 (9. 9. 8)	和 田 厚 行	67	平 (29. 9. 5)	阿 蘇 佳 一
49	平 (9. 9. 8)		68	平 (29. 9. 5)	
50	平 (10. 9. 7)	柏 木 義 晴		令 (元 9. 10)	今 井 実
51	平 (10. 9. 7)			令 (元 9. 18)	
52	平 (11. 9. 10)	宮 川 住 雄		令 (3. 9. 7)	小 菅 基 司
53	平 (11. 9. 20)			令 (3. 9. 7)	
54	平 (12. 9. 7)	横 溝 泰 世		令 (5. 9. 10)	横山 むらさき
55	平 (12. 9. 7)			令 (5. 9. 19)	
56	平 (13. 9. 11)	阿 蘇 佳 一		令 (7. 9. 3)	相 原 學
57	平 (13. 9. 11)			令 (7. 9. 3)	
58	平 (14. 9. 4)	高 橋 徹 夫			
59	平 (14. 9. 4)				
60	平 (15. 9. 10)	込 山 弘 行			
61	平 (15. 9. 18)				
62	平 (16. 9. 8)	宮 川 住 雄			
63	平 (16. 9. 8)				
64	平 (17. 9. 8)	三 竹 正 義			
65	平 (17. 9. 8)				
66	平 (18. 9. 7)	風 間 正 子			
67	平 (18. 9. 7)				
68	平 (19. 9. 10)	福 森 登			
69	平 (19. 9. 18)				
70	平 (20. 9. 3)	山 口 金 光			
71	平 (20. 9. 3)				
72	平 (21. 9. 3)	高 橋 文 雄			
73	平 (21. 9. 3)				
74	平 (22. 9. 2)	平 沢 信 子			
75	平 (22. 9. 2)				
76	平 (23. 9. 10)	高 橋 照 雄			
77	平 (23. 9. 20)				
78	平 (24. 9. 6)				

233 歴 代 副 議 長

議事政策課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	30. 1. 7 昭 (	小 島 栄 蔵	21	46. 9. 20 昭 (	府 川 泰 道
2	30. 5. 18 30. 5. 18 昭 (	恩 蔵 泰 助	22	47. 9. 18 47. 9. 18 昭 (	府 川 泰 道
3	30. 7. 31 30. 9. 19 昭 (	川 口 喜 助	23	48. 9. 17 48. 9. 18 昭 (	栗 原 達 夫
4	31. 9. 17 31. 9. 17 昭 (	青 木 吉 長	24	49. 9. 18 49. 9. 18 昭 (	武 俊 次
5	32. 9. 24 32. 9. 26 昭 (	大 津 茂 雄	25	50. 9. 10 50. 9. 19 昭 (	高 橋 徳 寿
6	33. 9. 18 33. 9. 19 昭 (	大 津 茂 雄	26	51. 9. 20 51. 9. 20 昭 (	浅 見 武
7	34. 1. 26 34. 3. 28 昭 (	高 橋 眞	27	52. 9. 21 52. 9. 21 昭 (	栗 原 彰
8	34. 9. 10 34. 9. 18 昭 (	川 口 喜 助	28	53. 9. 12 53. 9. 12 昭 (	山 本 博
9	35. 9. 26 35. 9. 26 昭 (	関 口 澄	29	54. 9. 10 昭 54. 9. 18 (	富 川 清
10	36. 9. 25 36. 9. 25 昭 (	恩 蔵 泰 助	30	昭 56. 9. 25 56. 9. 25 昭 (	小 泉 功
11	37. 6. 4 37. 6. 4 昭 (	草 柳 良 造	31	57. 9. 22 57. 9. 22 昭 (	高 城 昭 夫
12	38. 9. 10 38. 9. 18 昭 (	府 川 泰 道	32	58. 9. 10 58. 9. 20 昭 (	池 田 卯太郎
13	39. 9. 17 39. 9. 18 昭 (	府 川 泰 道	33	59. 9. 10 59. 9. 10 昭 (	草 山 忠 文
14	40. 9. 13 40. 9. 13 昭 (	三 杉 一 雄	34	60. 9. 19 60. 9. 19 昭 (	古 谷 義 幸
15	41. 9. 17 41. 9. 22 昭 (	石 垣 千 代	35	61. 9. 25 61. 9. 25 昭 (	栗 原 秀 雄
16	42. 9. 10 42. 9. 20 昭 (	高 橋 義 三	36	62. 5. 18 62. 9. 18 昭 (	山 谷 久万吉
17	43. 9. 17 43. 9. 17 昭 (	落 新二郎	37	63. 9. 5 昭 63. 9. 5 (	原 米 司
18	43. 9. 26 43. 9. 26 昭 (	川 口 喜 助	38	平 元. 9. 11 元. 9. 11 平 (	柏 木 義 晴
19	44. 9. 19 44. 9. 19 昭 (	久保寺 恵太郎	39	2. 9. 5 2. 9. 5 平 (	北 村 弥一郎
20	45. 9. 18 45. 9. 18 昭 (	草 山 権 平	40	3. 9. 10 3. 9. 19 平 (	横 溝 泰 世
	46. 9. 10			4. 9. 9	

233 歴 代 副 議 長 （ つ づ き ）

議事政策課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
41	平 (4. 9. 9)	中 山 英 征	61	平 (24. 9. 6)	小 菅 基 司
42	平 (5. 9. 8)	和 田 厚 行	62	平 (25. 9. 4)	神 倉 寛 明
43	平 (6. 9. 7)	今 井 敏	63	平 (26. 9. 3)	今 井 実
44	平 (7. 9. 10)	阿 蘇 佳 一	64	平 (27. 9. 10)	横山 むらさき
45	平 (8. 9. 27)	福 岡 豊	65	平 (28. 9. 5)	古 木 勝 久
46	平 (9. 9. 8)	高 橋 徹 夫	66	平 (29. 9. 5)	相 原 學
47	平 (10. 9. 7)	伴 和 之	67	平 (30. 9. 4)	山 下 博 己
48	平 (11. 9. 10)	込 山 弘 行	68	令 (元. 9. 10)	木 村 眞 澄
49	平 (12. 9. 7)	安 藤 慶	69	令 (2. 9. 7)	露 木 順 三
50	平 (13. 9. 11)	原 田 進	70	令 (3. 9. 7)	谷 和 雄
51	平 (14. 9. 4)	風 間 正 子	71	令 (4. 9. 6)	八 尋 伸 二
52	平 (15. 9. 10)	三 竹 正 義	72	令 (5. 9. 10)	原 聡
53	平 (16. 9. 8)	福 森 登	73	令 (7. 9. 3)	中 村 英 仁
54	平 (17. 9. 8)	有 馬 静 則			
55	平 (18. 9. 7)	門 屋 篤			
56	平 (19. 9. 10)	大 野 祐 司			
57	平 (20. 9. 3)	高 橋 照 雄			
58	平 (21. 9. 3)	村 上 茂			
59	平 (22. 9. 2)	佐 藤 敦			
60	平 (23. 9. 20)	川 口 薫			
	平 (24. 9. 6)				

234 旧町村当時の理事者等 — 明治22年市町村制施行以来 —

(1) 秦野町

秘書課調

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	22. 5. 10 明 (	村 上 長兵衛	1 2	大 15. 10. 16 (	平 野 儀三郎
2	26. 5. 9 26. 5. 12 明 (	佐 藤 政 吉	1 3	昭 5. 10. 15 6. 2. 12 昭 (	梶 山 久次郎
3	30. 5. 11 30. 5. 13 明 (	大野 与五右衛門	1 4	10. 2. 11 10. 3. 11 昭 (	関 野 顕 治
4	34. 5. 12 34. 5. 13 明 (	大野 与五右衛門	1 5	11. 6. 11. 7. 昭 (	石 井 兵 助
5	38. 5. 12 38. 5. 13 明 (	大野 与五右衛門	1 6	13. 10. 14. 1. 昭 (	杉 山 茂
6	42. 5. 12 明 42. 5. 14 (	大野 与五右衛門	1 7	15. 8. 16. 12. 27 昭 (	木 村 淳
7	大 2. 5. 12 2. 5. 12 大 (	大野 与五右衛門	1 8	19. 7. 11 19. 7. 23 昭 (	高 橋 角 藏
8	6. 5. 13 6. 5. 14 大 (	大野 与五右衛門	1 9	21. 2. 15 21. 3. 11 昭 (	北 村 寅之助
9	9. 7. 17 9. 9. 15 大 (	安 藤 泰太郎	2 0	22. 4. 5 22. 4. 6 昭 (	望 月 永三郎
1 0	12. 8. 27 12. 9. 7 大 (	佐 野 義 職	2 1	22. 11. 27 23. 1. 20 昭 (	中 村 新 治
1 1	14. 9. 1 14. 2. 2 大 (	西 海 惣兵衛	2 2	27. 1. 7 27. 1. 16 昭 (	中 村 新 治
	15. 9. 23			29. 12. 31	

(2) 南秦野町

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	22. 5. 10 明 (	清 水 仙左エ門	7	40. 12. 26 明 (	露 木 重次郎
2	26. 4. 16 26. 5. 15 明 (	高 橋 元次郎	8	44. 12. 25 44. 12. 26 大 (	小 林 莊次郎
3	30. 5. 14 30. 5. 22 明 (	栗 原 宣太郎	9	3. 12. 11 4. 2. 17 大 (	高 橋 元次郎
4	31. 3. 31 31. 4. 11 明 (	小 泉 芳太郎	1 0	8. 2. 16 8. 2. 19 大 (	清 水 直 吉
5	35. 4. 10 35. 4. 29 明 (	加 藤 弥一郎	1 1	12. 2. 18 12. 3. 9 大 (	清 水 直 吉
6	39. 4. 28 39. 5. 10 明 (	清 水 直 吉	1 2	15. 3. 8 大 15. 3. 16 (	草 山 直 吉
	40. 10. 13			昭 5. 3. 15	

234 旧町村当時の理事者等 — 明治22年市町村制施行以来 — (つづき)

(2) 南秦野町 (つづき)

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
13	昭 (5. 11. 13)	草 山 貞 蔵	17	昭 (22. 9. 15)	上 村 重 昌
14	昭 (9. 11. 12 10. 3. 1)	綾 部 喜代治	18	昭 (26. 4. 4 26. 4. 22)	上 村 重 昌
15	昭 (14. 2. 28 14. 3. 31)	綾 部 喜代治	19	昭 (27. 11. 29 28. 2. 22)	西 田 共 清
16	昭 (18. 2. 28 18. 5. 11 21. 11. 14)	山 口 七 蔵		昭 (29. 12. 31)	

(3) 東秦野村

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	明 (22. 5. 10)	小 泉 重 吉	10	大 15. 2. 25 (昭 4. 10.)	加 藤 周 助
2	明 (26. 5. 26. 5.)	室 田 斉 助	11	昭 (4. 11. 6)	相 原 仲次郎
3	明 (31. 5. 31. 9. 12)	小 泉 健 造	12	昭 (8. 11. 5 8. 11. 15)	小 泉 光 三
4	明 (35. 9. 8 35. 9. 19)	小 泉 健 造	13	昭 (12. 11. 15 12. 12. 16)	大 津 為一郎
5	明 (39. 9. 18 39. 9. 19)	小 泉 健 造	14	昭 (16. 12. 14 16. 12. 16)	大 津 為一郎
6	明 (43. 9. 18 43. 9. 28)	古 木 利三郎	15	昭 (20. 12. 15 21. 1. 23)	込 山 勝 治
7	大 (3. 9. 3. 10.)	田 代 六太郎	16	昭 (22. 3. 28 22. 4.)	込 山 勝 治
8	大 (7. 9. 7. 10.)	田 代 六太郎	17	昭 (25. 3. 25. 4.)	小 沢 永 蔵
9	大 (11. 9. 11. 10.)	田 代 六太郎	18	昭 (29. 4. 29. 4.)	大 佛 俊 龍
	大 (14. 11.)			昭 (29. 12. 31)	

2 3 4 旧町村当時の理事者等 — 明治22年市町村制施行以来 — (つづき)

(4) 北秦野村

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	22. 5. 11 明 (	村 上 国三郎	1 1	2. 5. 3 昭 (	伊 沢 茂三郎
2	26. 5. 10 26. 5. 11 明 (	山 口 弥重郎	1 2	6. 5. 2 6. 6. 15 昭 (	草 柳 喜十郎
3	30. 5. 10 30. 5. 15 明 (	山 口 勝 治	1 3	10. 6. 14 11. 10. 13 昭 (	草 柳 伊太郎
4	34. 5. 14 34. 5. 16 明 (	村 上 国三郎	1 4	11. 11. 9 11. 11. 14 昭 (	山 口 清 一
5	38. 5. 15 38. 6. 1 明 (	山 口 勝 治	1 5	15. 11. 13 15. 11. 14 昭 (	山 口 清 一
6	42. 5. 31 明 42. 6. 1 (	山 口 勝 治	1 6	18. 3. 9 18. 5. 31 昭 (	山 口 亮之助
7	大 2. 5. 31 2. 6. 1 (	山 口 弥重郎	1 7	19. 4. 15 19. 4. 16 昭 (	大 沢 藤 七
8	6. 3. 12 6. 3. 22 大 (	草 柳 喜十郎	1 8	21. 9. 26 22. 1. 15 昭 (	伊 沢 茂三郎
9	10. 3. 23 10. 3. 23 大 (	草 柳 八五郎	1 9	22. 4. 7 22. 4. 8 昭 (	草 柳 淳 造
1 0	12. 3. 24 大 12. 4. 20 (昭 2. 4. 19	山 口 勝 治	2 0	26. 4. 4 26. 4. 27 昭 (	草 柳 淳 造
				29. 12. 31	

(5) 大根村

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	22. 5. 10 明 (	杉 山 欽二郎	8	34. 6. 14 明 (	関 小太郎
2	23. 5. 23. 7. 明 (	岩 田 俊 平	9	35. 9. 23 35. 10. 14 明 (	上 野 豊 三
3	25. 4. 25. 4. 明 (	今 井 精 造	1 0	37. 10. 5 37. 10. 29 明 (	斉 藤 喜三郎
4	26. 4. 26. 4. 明 (	前 田 久 治	1 1	37. 11. 15 37. 11. 26 明 (	高 橋 福次郎
5	27. 5. 27. 5. 明 (	今 井 國三郎	1 2	39. 7. 21 39. 8. 17 明 (	平 井 守 蔵
6	28. 4. 28. 4. 4 明 (	須 崎 永三郎	1 3	43. 8. 16 明 43. 8. 16 (	平 井 守 蔵
7	32. 4. 3 32. 4. 12 明 (	須 崎 永三郎	1 4	大 2. 2. 22 2. 3. 5 大 (	岩 田 俊 平
	34. 5. 23			6. 3. 4	

2 3 4 旧町村当時の理事者等 — 明治22年市町村制施行以来 — (つづき)

(5) 大根村 (つづき)

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
15	大 (6. 4. 4)	原 鉦太郎	21	昭 (12. 4.)	関 野 進
16	大 (7. 10. 31 7. 12. 23)	上 野 豊 三	22	昭 (15. 5. 27 15. 6. 17)	関 野 進
17	大 (11. 12. 22 11. 12. 26)	関 野 進	23	昭 (17. 7. 18 17. 7. 25)	飯 田 弥三郎
18	昭 (元. 12. 25 2. 5. 9)	関 野 進	24	昭 (19. 1. 5 19. 3. 25)	平 井 守 蔵
19	昭 (3. 9. 25 4. 3. 9)	関 野 進	25	昭 (22. 4.) 22. 4. 10)	高 橋 全 蔵
20	昭 (8. 2.) 8. 3. 4)	関 野 進	26	昭 (26. 4. 4 26. 5.) 30. 4. 15)	清 水 徳 造

(6) 西秦野町

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	明 (22. 7. 1)	谷 鼎次郎	12	大 (3. 3. 16)	米 山 作太郎
2	明 (23. 12.) 23. 12.)	平 賀 清五郎	13	大 (5. 2. 23 5. 4. 7)	山 口 貫 一
3	明 (26. 3.) 26. 4.)	諸 星 勝 蔵	14	大 (7. 10. 30 7. 11. 8)	石 井 富五郎
4	明 (28. 3.) 28. 3. 16)	栗 原 啓 蔵	15	大 (9. 5. 4 9. 5. 19)	大 森 良 三
5	明 (29. 2. 28 29. 4. 22)	諸 星 才三郎	16	大 (10. 10. 15 10. 12. 20)	飯 田 定次郎
6	明 (32. 4. 1) 32. 5. 24)	伊 丹 元五郎	17	大 (11. 3. 20 12. 2. 21)	山 口 貫 一
7	明 (33. 2. 10 33. 3. 2)	諸 星 才三郎	18	大 (12. 4. 25 12. 9. 9)	米 山 作太郎
8	明 (37. 3. 1) 37. 3. 18)	諸 星 才三郎	19	昭 (15. 2. 1 2. 8. 10)	石 井 大 蔵
9	明 (38. 5. 15 38. 6. 3)	鈴 木 弥五郎	20	昭 (6. 8. 7 7. 2. 13)	谷 一 郎
10	明 (42. 6. 2 42. 6. 3)	飯 田 定次郎	21	昭 (9. 3. 12 9. 5. 13)	山 口 康次郎
11	大 (43. 2. 21 43. 3. 10)	米 山 作太郎	22	昭 (10. 4. 7 10. 6. 10) 14. 6. 9)	村 上 和喜三

234 旧町村当時の理事者等 — 明治22年市町村制施行以来 — (つづき)

(6) 西秦野町 (つづき)

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
23	14. 6. 23 昭 (	飯 田 照	27	26. 4. 18 昭 (	栗 原 一 郎
24	15. 6. 12 15. 7. 7 昭 (	村 上 和喜三	28	30. 4. 17 30. 4. 18 昭 (	栗 原 一 郎
25	19. 7. 6 19. 8. 10 昭 (	石 井 留 三	29	32. 7. 31 32. 9. 21 昭 (	大 森 信 孝
26	21. 11. 11 22. 4. 18 昭 (	栗 原 一 郎	30	36. 9. 20 36. 9. 21 昭 (	大 森 信 孝
	26. 4. 17			37. 12. 31	

(7) 上秦野村

歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名	歴 順	就 任 年 月 日 退 任	氏 名
初 代	22. 5. 7 明 (	熊 沢 保 之	13	4. 4. 19 大 (	増 田 卯三郎
2	24. 3. 1 24. 3. 18 明 (	熊 沢 又 蔵	14	8. 4. 18 元. 5. 5 大 (	牧 石 薫 平
3	26. 8. 7 26. 8. 16 明 (	熊 沢 庸 作	15	12. 5. 4 12. 5. 5 昭 (	熊 沢 豁 爾
4	28. 8. 31 28. 9. 28 明 (	井 上 安太郎	16	2. 5. 4 2. 5. 5 昭 (	熊 沢 豁 爾
5	32. 9. 27 32. 10. 21 明 (	熊 沢 又 蔵	17	4. 1. 4 4. 1. 12 昭 (	守 屋 鞆 負
6	36. 10. 20 36. 11. 17 明 (	熊 沢 豁 爾	18	8. 1. 11 8. 9. 13 昭 (	和 田 和 賀
7	36. 11. 23 36. 12. 9 明 (	和 田 庄之助	19	12. 9. 12 12. 9. 13 昭 (	和 田 和 賀
8	40. 12. 8 40. 12. 7 明 (	和 田 庄之助	20	16. 9. 12 16. 9. 13 昭 (	熊 沢 脩 一
9	41. 3. 27 41. 4. 24 明 (	熊 沢 好太郎	21	20. 9. 12 20. 9. 13 昭 (	熊 沢 脩 一
10	44. 11. 10 45. 4. 6 明 (	熊 沢 豁 爾	22	21. 11. 4 22. 4. 7 昭 (	増 田 明治郎
11	45. 5. 17 元. 10. 1 大 (	牧 石 薫 平	23	26. 4. 4 26. 4. 26 昭 (	府 川 始 吉
12	2. 12. 27 3. 1. 22 大 (	和 田 庄之助		30. 7. 22	
	4. 3. 16				

(注) 23代村長府川始吉氏の在任期間については、町村合併促進法の特例により延長されている

235 秦野市の主な記録

年 号	月 日	主 な こ と が ら
明治元年 (1868年)	4月21日	地方を分けて、府藩県とし、知府事・諸侯・知県事が置かれる
	9月21日	神奈川府を神奈川県と改める
明治2年 (1869年)	6月17日	版籍奉還
	6月19日	小田原藩知事に大久保忠良任官
	10月	市内元町御門龍門寺境内に修身館（本町小学校の前身）創立
明治4年 (1871年)	4月	戸籍法施行
	7月14日	当地方小田原県となる、このとき全国261県に分割される
	11月14日	従来 of 荻野山中県・小田原県・韮山県を廃して足柄県となる このとき全国3府72県となる
明治5年 (1872年)	8月 2日	学制公布
	9月12日	鉄道開通（新橋－横浜）
明治6年 (1873年)	5月21日	上小学校の前身、足柄上郡柳川村第106番小学校創立
	6月22日	修身館、学制公布により、公学校に充当され、学区は曾屋村・今泉村・名古木村・落合村・上大槻村・大竹村となる
	6月	大根小学校の前身、真田天徳寺に大住郡真田村第44番小学校創立
	7月30日	加羅古神社等を井明神社に合祀、曾屋神社と改称
	7月	北小学校の前身、輯雍館第3支校、菩提に創立
明治7年 (1874年)	12月16日	入船町に郵便局所開局
明治9年 (1876年)	4月18日	当地方神奈川県となり、従来の足柄県は元韮山県の地域を静岡県に移し、荻野山中県及び小田原県の地域を神奈川県に移して消滅、これにより神奈川県は23大区208小区となり、曾屋村は第22大区の第4小区、上大槻村は同じ大区の第5小区に属す
明治10年 (1877年)	10月	旧曾屋村2, 377番地に小田原警察出張所巡査屯所出来る
	6月 6日	修身館校舎類焼
明治11年 (1878年)	12月14日	修身館大用寺仮校舎失火し、校具・書類全て焼失
	2月14日	西小学校の前身、渋沢学校創立
	2月	北小学校の前身、輯雍館第3支校、戸川に砥河学校として独立
	4月	修身館、上宿観音堂裏に新校舎竣工し曾屋学校と称す 平沢村を学区に編入

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
明治11年 (1878年)	5月	小田原警察出張所巡查屯所の庁舎落成
	11月18日	太政官布告郡区町村編成法（7月22日施行）により、曾屋村及び上大槻村は大住郡5分1村外113ヶ宿村に属す
	12月 2日	大住、洵綾郡役所、大磯駅南本町194に開庁
明治12年 (1879年)	6月13日	町村会規則、県令布達
	10月	大根小学校の前身が真田、矢名、金目の3校に分離
	12月	東小学校の前身、尋常高等田原小学校創立
明治13年 (1880年)	4月 8日	区町村会法布告
明治16年 (1883年)	7月27日	歌人前田夕暮、南矢名村に生まれる
明治17年 (1884年)	6月18日	従前の戸長役場を廃し、戸長所轄区域及び役場位置を定める県令布達により、戸長役場を曾屋村に置き、所轄区域を曾屋村・今泉村・尾尻村・大竹村の4ヶ村とする この頃、当地方にキリスト教の伝導はじまる
明治18年 (1885年)	9月 1日	堀川生まれの俳人山口八郎左衛門久重（号・芳十）死亡（84歳）
	10月	長源寺、火災で本堂を焼失
明治19年 (1886年)	9月 6日	真田の分校に真田・矢名・金目3校の高等科併設
明治20年 (1887年)	1月	小田原警察出張所巡查屯所、洵綾郡警察署・曾屋分署となる
	2月	堀斉藤・堀沼代の両村を合併して堀西村成立
	〃	秦野高校の前身、三郡共立学校創立
	3月	曾屋村有志、飲料水改良に関する設計を県庁へ出願
	7月11日	横浜―国府津間鉄道開通
明治21年 (1888年)	3月	曾屋村有志37人、水道布設及びその監督を県庁に出願、併せて水道工事規約及び議事規則の許可申請
	4月	曾屋区水道布設及び工事監督について認可
	11月	曾屋区水道起工
明治22年 (1889年)	3月18日	小田原治安裁判所曾屋出張所（現横浜地方法務局秦野出張所）開庁
	4月 1日	市制・町村制実施される これにより、堀山下・堀川・堀西・渋沢・千村の5ヶ村合併、西秦野村成立

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
明治22年 (1889年)	4月 1日	蓑毛・小蓑毛・寺山・東田原・西田原・落合・名古屋の7ヶ村併合して東秦野村成立 篠窪・柳・高尾・赤田各村合併して上中村成立 落幡・真田・南矢名・北矢名・下大槻の各村併合して大根村成立 曾屋村・上大槻村・下大槻村飛地・名古屋村飛地を分合して秦野町となり、秦野町人口4,509人 平沢・今泉・尾尻・大竹の4ヶ村併合して南秦野村成立（このとき大竹を現伊勢原市の大竹と区別するため西大竹とする） 羽根・菩提・横野・戸川・三屋の5ヶ村併合して北秦野村成立
明治23年 (1890年)	3月15日	曾屋区水道配水開始（簡易陶管水道）
明治24年 (1891年)	3月	曾屋学校、学区を秦野町及び名古屋に限定
	4月	曾屋学校の学区を秦野町に限定
明治25年 (1892年)	4月24日	南小学校の前身、尋常南秦野小学校創立
	4月	東小学校の前身、尋常開進小学校開校
	4月	真田・矢名の2校合併し、尋常大根小学校と改称
	5月 1日	西小の前身、堀小学校創立
	5月	砥河学校の廃校にともない尋常北秦野小学校が菩提北石原に開校
	6月	東小学校の前身、尋常高等東雲小学校開校
	7月	相模銀行創立
	11月 3日	秦野銀行創立
明治26年 (1893年)	3月 1日	南小学校、校舎新築、また同日高等科併置
	4月12日	上小学校に補修科設置
	7月	曾屋学校、高等小学校を天徳寺におく
	11月	淘綾郡警察曾屋分署、大磯警察曾屋分署と改称
明治27年 (1894年)	4月	本町に尋常・高等両科を併置、尋常高等曾屋小学校と改称
	5月	尋常大根小学校に高等科を併置、尋常高等大根小学校と改称
	10月	公設秦野消防組認可
明治28年 (1895年)	5月28日	尋常南秦野小学校、校舎増築
明治29年 (1896年)	4月 1日	大住、淘綾郡合併して当地方中郡となる
	4月	秦野高校の前身、三郡共立学校が二郡共立学校となる

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
明治29年 (1896年)	7月11日	尋常北秦野小学校に高等科併設
	×××	日本聖公会秦野聖ルカ教会、曾屋2360番地に設立
明治31年 (1898年)	1月 1日	秦野葉たばこ専売所開設
明治32年 (1899年)	5月	曾屋区水道において曾屋神社境内南側湧泉に隧道を掘る
	10月	秦野煙草試験場設置
明治33年 (1900年)	3月21日	尋常上秦野小学校で補修科廃止
	4月	尋常高等曾屋小学校、現在地に校舎新築着工、また天徳寺並びに長福寺をもって分校に充当
	12月 3日	尋常高等大根小学校、現在地に移転、校舎を増築
明治34年 (1901年)	×××	渋沢に簡易陶管水道完成
	1月	尋常高等曾屋小学校、天徳寺分校を廃す
	9月	湘南馬車鉄道、鉄軌敷設して一般運輸を営むことについて特許を受区（吾妻－秦野）
	12月	各町村別に消防組編成し警察署長の指揮を受ける
明治35年 (1902年)	1月	尋常高等曾屋小学校、新校舎一部落成
	4月15日	尋常上秦野小学校で高等科授業開始
	4月	秦野高校の前身の二郡共立学校、中郡立農業学校となる
	10月	曾屋区水道、配水池から四ツ角まで直通管布設工事着手
	11月1日	尋常高等上秦野小学校、新築工事着手
明治36年 (1903年)	1月	尋常高等曾屋小学校、校舎全部落成
	2月21日	尋常高等上秦野小学校、新築工事落成開校
	2月	曾屋区水道直通管布設工事竣工
明治37年 (1904年)	7月	たばこ製造が民営から官営に移る
明治38年 (1905年)	2月12日	湘南馬車鉄道株式会社設立
	2月22日	湘南馬車鉄道、吾妻－秦野間軌道敷設工事着工
	2月	秦野煙草製造所設置、刻みたばこの製造はじまる
	×××	尋常高等曾屋小学校、校舎狭あいのため尋常2学年を全部2部教授とする

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
明治39年 (1906年)	4月	尋常高等曾屋小学校に実業補習学校男子部を附設
	〃	尋常高等曾屋小学校に英語科が加設
	〃	尋常高等北秦野小学校に裁縫室兼小使室一棟増築
	7月	尋常高等曾屋小学校、増築工事に着手
	8月 4日	湘南馬車鉄道株式会社、営業開始許可される
	8月	尋常高等曾屋小学校の運動場、大雨のため一部流失
明治40年 (1907年)	4月	尋常高等曾屋小学校の新校舎全部落成し、2部教授を廃す
明治41年 (1908年)	3月	中郡立農業学校を廃校す
	〃	秦野高校の前身、私立育英学校創立
	4月	義務教育6ヵ年となる
明治42年 (1909年)	9月	尋常高等北秦野小学校の本校舎改築落成
	10月10日	秦野電気合資会社設立
明治43年 (1910年)	1月 1日	秦野電気合資会社、初めて電灯・電力を秦野町及び南秦野村に供給する
	4月	尋常高等曾屋小学校、尋常3年以上6年まで全部2部教授を行う
	9月	尋常高等南秦野小学校、敷地2, 267㎡拡張
	×××	尋常高等曾屋小学校、10教室を増築計画し、土地2, 640㎡を購入
明治44年 (1911年)	2月	尋常高等曾屋小学校、増築校舎落成し、2部教授を全廃す
	8月	大洪水のため尋常高等曾屋小学校の校地495㎡が流失
明治45年 (1912年)	4月	尋常高等曾屋小学校で農園を設け、農業科の実習に便す
	〃	尋常高等曾屋小学校、女子補修学校を附設
	5月10日	富士瓦斯紡績株式会社と秦野町との間に電力供給契約成立
大正元年 (1912年)	10月 7日	秦野町営電気事業について許可申請す
大正2年 (1913年)	1月30日	秦野～二宮間の馬車鉄道、機関車に変更して運輸することについて許可される
	6月12日	私立秦野幼稚園開園される
	6月	秦野専売支局に秦野製造所合併

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
大正2年 (1913年)	11月	曾屋区水道、曾屋神社南側水源隧道を更に掘り進める
大正3年 (1914年)	9月28日	駿河銀行秦野支店開業
	10月	曾屋区水道増水工事竣工
大正4年 (1915年)	4月 6日	秦野電気合資会社の事業を秦野町に譲渡する契約成立
	11月 1日	尋常高等曾屋小学校に秦野町立秦野幼稚園附設
大正5年 (1916年)	6月 1日	秦野町営電気事業開始
大正7年 (1918年)	10月21日	湘南軌道株式会社設立
	×××	日本電力株式会社が東秦野村・大根村・北秦野村・西秦野村の大部分へ電灯を供給
大正8年 (1919年)	×××	尋常高等曾屋小学校、上宿観音堂裏の旧校舎を廃す
大正9年 (1920年)	8月 9日	尋常高等北小学校、5教室増築落成
	8月24日	東京高速鉄道株式会社、新宿－小田原間の鉄道敷設免許出願
	10月 1日	第1回国勢調査実施（人口3万2,337人）
	10月	富士水電株式会社、西秦野村の一部に電灯を供給開始
大正10年 (1921年)	7月15日	尋常高等南秦野小学校、学校敷地703㎡拡張
	7月	日本専売公社秦野工場、秦野地方専売局に改称
	9月 1日	秦野自動車株式会社、営業を開始
	×××	尋常高等大根小学校165㎡増築
大正11年 (1922年)	4月 1日	渋沢小学校と堀小学校、統一して尋常高等西秦野小学校となる
	5月29日	東京高速鉄道株式会社の新宿－小田原間の鉄道敷設免許
	12月20日	開進小学校、東雲小学校、田原小学校を統一し、尋常高等東秦野小学校となる
大正12年 (1923年)	3月 8日	東京高速鉄道株式会社が小田原急行鉄道株式会社と改称
	3月31日	郡制廃止
	4月 1日	尋常高等東秦野小学校が東秦野尋常高等小学校と改称
	〃	尋常高等南秦野小学校が南秦野尋常高等小学校と改称
	〃	尋常高等大根小学校が大根尋常高等小学校と改称
	〃	尋常高等曾屋小学校が曾屋尋常高等小学校と改称

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
大正12年 (1923年)	9月 1日	関東大震災 主なる建物の被害は次のとおり 南小学校校舎全部が半壊。北小学校校舎全部が右半壊、左半分は桜樹にささえられ倒壊をまぬがれ、後部は大破。上小学校、被害甚大なため翌年増改築 大根小学校全壊。私立育英学校（秦野高校の前身）校舎が倒壊 秦野郵便局（相模国曾屋3等郵便局）焼失本市では全壊1,490、半壊2,658、全焼233、半焼5、全流失25、半流失28、死亡171、負傷135、不明10。水道は壊滅的な打撃を受けた
	9月25日	北秦野尋常高等小学校、校舎大破のため神社・民家で授業を行う
	12月25日	北秦野尋常高等小学校、校舎が復旧して授業再開する
大正13年 (1924年)	12月	専売公社秦野工場、東京地方専売局秦野出張所に改称
大正14年 (1925年)	1月	曾屋区水道復興工事完成
	6月	曾屋尋常高等小学校、講堂及び職員室を新築
	7月10日	有限責任秦野信用販売購買利用組合設立許可
大正15年 (1926年)	10月 1日	第2回国勢調査実施（人口3万3,051人）
	11月10日	小田急線の起工式行われる
	12月	大根尋常高等小学校で平屋建660㎡・2階建825㎡・講堂236㎡新築
	3月 4日	私立育英学校廃止により奈珂中学校設立許可
	3月29日	曾屋尋常高等小学校に秦野実科高等女学校が併設され、同時に実業補習学校女子部を廃す
	3月	秦野町役場庁舎が新築着工
	4月10日	秦野実科高等女学校が曾屋尋常高等小学校に開校
	4月15日	奈珂中学校開校
	5月	県道の上宿・下宿・仲宿通り拡張工事が竣工
	6月 1日	曾屋尋常高等小学校に秦野町立青年訓練所が併置される
	6月	大道通り道路拡張起工
	7月 1日	中郡役所廃止
	7月	大磯警察署曾屋分署が秦野警察署に改称
	9月 6日	奈珂中学校（現秦野高校）が現在地に移転
	9月10日	秦野町役場新庁舎落成
	10月	大正通り・仲道通り・役場通りの道路拡張

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
大正15年 (1926年)	10月	曾屋神社裏の排水隧道改良工事に着手
	11月20日	南秦野尋常高等小学校で2階建新校舎落成
	12月	秦野橋改修工事行い、県道の片町・台町通り拡張起工
昭和2年 (1927年)	4月 1日	小田急が営業開始
	7月	石黒横丁道路拡張される
	10月15日	小田急が全線複線化され運転開始
昭和3年 (1928年)	10月	下宿県道入口ー仲宿通り入口が拡張される
	4月	大竹屋横丁道路拡張される
	5月	乳牛通り道路拡張される
	7月31日	台風のため入船橋橋脚流失、その他水無川沿岸に大被害
昭和4年 (1929年)	12月	東道通りの道路一部を拡張
	2月 9日	秦野実科高等女学校、校舎新築落成式挙行
	3月 1日	組合立奈珂中学校が神奈川県立奈珂中学校と改称
	3月10日	現在地に西小学校開校
	3月22日	曾屋尋常高等小学校、火災で9教室と理科室を焼失
	8月17日	曾屋尋常高等小学校、校舎を模様替及び移転着工
	10月28日	曾屋尋常高等小学校、2階建16教室増築工事に着工
	10月	秦野たばこ試験場が東秦野村に移転
昭和5年 (1930年)	4月	曾屋尋常高等小学校に附設の秦野実科高等女学校が独立し移転
	5月22日	曾屋尋常高等小学校、2階建16教室完成。又農業実習地及び河原5,670㎡を埋立て、校地を拡張
	10月 1日	第3回国勢調査実施（人口3万5,039人）
	11月16日	曾屋尋常高等小学校で理科室、手工室、裁縫室及び普通教室1を増築
	12月20日	秦野橋際の道路を拡張
昭和6年 (1931年)	4月 1日	秦野実科高等女学校が秦野町立秦野高等女学校と改称
	6月30日	昭和橋完成

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和7年 (1932年)	5月27日	弘法山の経塚調査行われ、鎌倉時代に営まれたものと推定
	10月 4日	秦野町町議会において秦野診療所設置のため秦野町外5ヵ村組合設置並びに組合規約設定について決定
	11月14日 ～15日	大暴風雨のため、各地で建物倒壊などの被害が相次ぐ 南秦野尋常高等小学校校舍7, 772㎡全壊、曾屋尋常高等小学校17教室倒壊、大根尋常高等小学校2階建校舎全壊北秦野村流失家屋34戸、床上浸水57戸
	12月12日	保証責任秦野商工信用組合が設立
昭和8年 (1933年)	2月20日	秦野町公益質屋が営業開始
	4月13日	湘南軌道株式会社の旅客運輸営業休止許可により、乗合自動車による国有鉄道連帯運輸となる
	12月15日	上秦野常高等小学校2階建校舎全小学校の新校舍落成
	12月21日	曾屋尋常高等小学校で2階建普通22・特別教室9を新築し、校地27, 390㎡となる
昭和9年 (1934年) 昭和10年 (1935年)	12月	十代橋及び九沢橋改築起工
	3月23日	曾屋尋常高等小学校が秦野尋常高等小学校と改称
	7月 1日	秦野町立青年学校開設
	10月 1日	第4回国勢調査実施（人口3万5, 515人）
昭和11年 (1936年) 昭和12年 (1937年)	11月 1日	県立奈珂中学校が神奈川県立秦野中学校と改称
	11月	東秦野尋常高等小学校の832㎡竣工
	3月16日	秦野町立幼稚園舎が新築落成
	7月15日	大洪水のため北秦野尋常高等小学校の北側の唐沢川堤防決壊し、北小学校校舎の一部が浸水
昭和13年 (1938年)	8月25日	湘南軌道株式会社の軌道運輸営業廃止が許可される
	3月	秦野町役場の敷地拡張
	8月15日	湘南軌道株式会社が旅客の国有鉄道連帯を廃止する
	8月31日 ～9月1日	暴風雨のため秦野尋常高等小学校前岸約160mが決壊、校庭660㎡及び正門両側コンクリート壁が流失
	8月	秦野診療所を日本赤十字社神奈川県支部へ移管
	10月21日	暴風のため北秦野尋常高等小学校校舎大破、また物置3棟が全壊、秦野尋常高等小学校でも第2校舎屋根の西側南面23㎡が破壊される
	11月	府県道の厚木御殿場線簡易舗装完成

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和14年 (1939年)	4月 1日	国立神奈川療養所附属看護婦養成所が開設
	〃	消防組を警防団に改組
	〃	青年学校の義務制を実施
	8月 1日	臨時国勢調査実施
	9月	秦野町役場庁舎の事務室及び階段を改造
	11月 6日	国立神奈川療養所の開所式行われる
	11月	東道の沼田屋横丁道路を拡張
昭和15年 (1940年)	3月 1日	秦野町立秦野高等女学校が神奈川県立秦野高等女学校と改称
	6月 1日	南秦野村が町制を施行
	9月	町内会隣組の設置
	10月 1日	第5回国勢調査実施（人口3万6,290人）
昭和16年 (1941年)	1月16日	北秦野尋常高等小学校に水道完成
	3月 1日	小田原急行鉄道株式会社が鬼怒川水力電気株式会社に合併して解散、鬼怒川水力電気株式会社を小田急電鉄株式会社と改称
	4月 1日	各尋常高等小学校が国民学校と改称
	6月10日	湘南軌道株式会社を湘南自動車株式会社と改称
	12月13日	相模・秦野両銀行が営業の全部を横浜興信銀行に譲渡
	12月	小田急電鉄、戦争のため特急運転を中断
	11月16日	秦野町議会において町営電気事業を関東配電株式会社に統合することを決定
昭和17年 (1942年)	5月	西秦野村役場の建設が行われる
昭和18年 (1943年)	1月26日	秦野町農業会設立し、同時に秦野信用購買販売利用組合が解散
昭和19年 (1944年)	9月14日	秦野町公設の浴場が開設
	10月 1日	曾屋区水道事業を秦野町へ移管
	10月	小田急電鉄、戦争のため急行運転を中断
	11月 2日	曾屋区を廃し、水道経営のために特別会計を設置

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和20年 (1945年) 昭和21年 (1946年)	12月 1日	国立神奈川療養所が一般国民に開放
	4月 1日	秦野高等女学校が5年制を実施
	7月16日	秦野郵便局が普通局となる
	10月21日	第2回農地改革
	12月	日本専売公社秦野工場が秦野専売支局となる
昭和22年 (1947年)	3月	青年学校を廃止
	4月 1日	義務教育6・3制を実施、秦野国民学校を秦野町立秦野小学校と改称
	〃	西秦野国民学校が西秦野村立西秦野小学校と改称
	4月30日	大根国民学校、中郡大根村立大根小学校と改称
	〃	町村会議員選挙が行われる
	5月 5日	新制中学校制度が発足
	6月10日	警防団が解散し、消防団を組織
	9月15日	東道の初音館脇道路を改修し、コンクリート舗装にする
	10月 1日	臨時国勢調査実施
	12月 1日	大根小学校で4教室を増築
昭和23年 (1948年)	3月 7日	自治体警察の秦野町警察署と南秦野町警察署を設置
	3月	県分譲住宅20戸竣工
	4月 1日	南秦野中学校校舎に旧日本鍛工青年学校校舎を使用
	〃	県立秦野中学校が神奈川県立秦野高等学校に改称
	〃	秦野高等女学校が県立秦野女子高等学校に改称
	4月15日	秦野商工会議所開設
	4月24日	秦野町農業協同組合が設立を許可される
	5月 1日	秦野女子高等学校の定時制課程設置につき認可される
	5月 5日	村立東秦野中学校で3教室を増築
	5月	南秦野町農協（14日）、秦野町農協（18日）、大根村農協（25日）発足
	6月	東秦野村農協（4日）、西秦野村農協（8日）、北秦野村農協（24日）発足

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和23年 (1948年) 昭和24年 (1949年)	10月 1日 ～2日	第1回たばこ祭開催、民謡たばこ音頭制作
	1月 1日	秦野町警察署と南秦野警察署が併合して秦野警察署と改称
	1月	小田急電鉄が急行運転を再開
	3月26日	町立秦野（現本町）中学校で第1期工事完了
	4月	小田急電鉄が特急運転を再開
	5月 2日	西秦野村立中学校で増築、普通教室7・理科室1・他3
	6月 1日	日本専売公社秦野工場が日本専売公社秦野支局に改まる
	〃	秦野郵便局が電通と分離
	6月	秦野警察署が今泉77番地の新庁舎へ移転
	8月31日	キティ台風が来襲、全壊2・半壊4・床下浸水8
昭和25年 (1950年)	10月27日	パトリシア台風が来襲、負傷32人・全壊36・半壊59
	2月24日	保証責任秦野商工信用組合を秦野信用組合と改称
	3月17日	大根村立中学校で新校舎第1期工事完成
	4月 1日	県立秦野高等女学校が県立大秦野高等学校と改称
	4月	日本赤十字社神奈川県支部の秦野診療所、病院に昇格
	7月30日	村立北秦野中学校の南側校舎644㎡が竣工
	9月11日	秦野郵便局が今泉131番地に移転
	10月 1日	第7回国勢調査実施（人口4万9,633人）
昭和26年 (1951年)	1月 8日	町立秦野（現本町）中学校、第2期工事完了
	3月 5日	東秦野小学校で2階校舎竣工
	3月18日	秦野水道復興25周年記念式挙行
	3月	平塚保健所秦野出張所が桜町一丁目へ移転
	5月28日	大秦野バプテスト教会設立
	6月20日	足柄上郡相和村大字柗窪を西秦野村に編入
	7月29日	前田夕暮第4歌碑を弘法山に建立
	10月 1日	自治警察秦野警察署が廃止され、秦野地区警察署と改称

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和26年 (1951年)	11月 1日	西秦野村立中学校校舎第2期工事が竣工
	11月15日	秦野聖ペトロカトリック教会が設立
昭和27年 (1952年)	1月 7日	村立北秦野中学校の北側新校舎及び使丁室736㎡竣工
	3月10日	大根村立中学校、第2期工事完成
	6月26日	上秦野小学校で校舎2教室上棟式举行
	7月 5日	町立秦野中学校、第3期工事完了
	10月11日	上秦野小学校で落成式举行
	11月 1日	地方教育委員会が発足
	11月 1日	地方教育委員会が発足
昭和28年 (1953年)	2月	NHKテレビ放送開始
	4月	平塚保健所秦野出張所が平塚保健所秦野支所に昇格
	9月 1日	町村合併促進法公布
	10月22日	南秦野中学校で現在地に第1校舎を新築
	11月 3日	大根村立中学校で校歌制定
	2月 4日	南第1簡易水道認可
	2月19日	秦野町立公民館増改築工事落成式
昭和29年 (1954年)	2月21日	町立秦野小学校で校歌制定
	4月 1日	秦野聖ルカ教会が幼児学園を開設
	〃	学校法人西秦野幼稚園が春日町4番4号に開設
	〃	南秦野町立南秦野幼稚園が開園
	5月 9日	南秦野中学校で第2・3・4・5校舎増築
	7月 1日	秦野地区警察署が秦野警察署に改称
	7月 8日	上秦野小学校で給食教室竣工
	7月27日	秦野地方合併促進協議会設立
	9月 9日	秦野町議会で南秦野町・東秦野村・北秦野村との合併について決定、また同日南秦野町・北秦野村議会においてもこれを決定
	9月15日	東秦野小学校で第2期新校舎が竣工

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和29年 (1954年)	9月18日	東秦野村議会で秦野町・南秦野町・北秦野村との合併について決定
	9月30日	県議会で市制施行について承認
	10月 1日	大秦野バプテスト教会がひばりヶ丘保育園を開設
	10月 6日	上秦野小学校で学校給食を開始
	10月13日	秦野地方町村合併促進協議会が解散、秦野市制準備委員会結成
	10月26日	県告示第627号で昭和30年1月1日から2町2村の合併並びに市制施行について告示
	11月 2日	大根村立中学校、新築校舎第3期工事が落成
	11月20日	町立秦野中学校、体育館落成式
	〃	町立秦野中学校、第4期工事完了
	〃	秦野町制65周年記念式典挙行
昭和30年 (1955年)	1月 1日	中郡秦野町・南秦野町・東秦野村・北秦野村が合併し、市制を施行
	〃	秦野市発足に伴い議員定数が76名となる
	〃	秦野市東財産区並びに北財産区を設置
	1月 7日	初代市議会議長に青木峰雄氏就任
	2月 5日	初代市長に中村新治氏就任
	4月 1日	北幼稚園が開園
	4月15日	中郡大根村の一部が編入合併し、議員定数は91名となる
	7月28日	西秦野村と上秦野村が合併し西秦野町成立
	9月11日	5選挙区（旧町村単位）により市議会議員選挙執行（定員30名）
	10月 1日	第8回国勢調査実施（人口5万747人）
	10月30日	第10回国民体育大会が本県で開催され、本市において山岳・レスリング競技が行われる
昭和31年 (1956年)	1月12日	本町中学校校舎焼失
	2月 3日	「秦野市工場設置等奨励に関する条例」を制定
	4月 1日	南第2簡易水道、本町第2簡易水道及び横野簡易水道の給水開始
	5月 1日	東幼稚園が開園

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和31年 (1956年)	8月28日	北中学校に体育館完成
	10月29日	本町中学校校舎焼失に伴う新築工事完成
昭和32年 (1957年)	3月17日	2代市長に清水虎吉氏就任
	3月23日	都市計画用途地域を変更、住居地域222.5ha、商業地域26.1ha、準工業地域111.5ha、工業地域4.0haとなる
	4月 1日	菩提簡易水道の給水開始
	〃	大根幼稚園が開園
	9月21日 ～23日	第10回たばこ祭
	10月 1日	「秦野市清掃条例」を制定
	12月 1日	秦野瓦斯株式会社ガス供給開始
昭和33年 (1958年)	1月 1日	市章を制定
	3月	有線放送がはじめて南・大根地区に設置される
	4月 1日	都市計画街路駅前水無川線築造工事着工
	〃	田原簡易水道及び名古屋簡易水道の給水開始
	4月	平塚保健所秦野支所が秦野保健所に昇格
	6月 1日	県立秦野職業補導所が設置される
	6月 2日	上幼稚園が開園
	7月 1日	県立秦野職業補導所が県立秦野職業訓練所と改称
昭和34年 (1959年)	4月 1日	尾尻簡易水道及び小原簡易水道の給水開始
	4月30日	大根中学校に体育館完成
	5月	秦野市他1町組合立伝染病隔離病舎完成
	7月	日本専売公社秦野工場、刻みたばこの製造を廃止し両切工場として操業を開始
	9月 6日	市議会議員選挙執行（定数24名）
	11月	「新市建設計画」を作成
昭和35年 (1960年)	4月 1日	南・東・北・大根の各出張所を廃止
	4月	都市計画街路峯榎戸線築造工事着工
	5月 2日	弘法山一帯が県立自然公園に指定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和35年 (1960年)	7月20日	第1号「市政だより」を発刊
	10月 1日	第9回国勢調査実施（人口5万1285人）
昭和36年 (1961年)	3月17日	3代市長に加藤喜太郎氏就任
	3月31日	本町第1水道六間配水池（1,000m ³ ）完成
	4月 1日	国民年金保険料徴収事務を開始
	4月28日	南中学校に体育館完成
	5月20日	秦野市外二町清掃処理組合設立
	10月12日	「秦野市工場設置等奨励に関する条例」を廃止
	11月25日	財団法人秦野市開発公社を設立
	10月	県道平塚秦野線（オヶ分）に立体交差道路が完成
昭和37年 (1962年)	1月 1日	秦野市と西秦野町が合併、人口5万3,298人となる
昭和38年 (1963年)	〃	西財産区を設置
	2月26日	秦野市外二町清掃処理組合、秦野市伊勢原町清掃組合に名称変更
	3月27日	秦野警察署新庁舎が桜町一丁目に完成
	3月	都市計画街路駅前水無川線完成
	4月	市単独土地改良事業補助制度を開始
	〃	大秦野駅前広場整備事業に着手
	〃	東海大学湘南校舎が開校
	5月31日	秦野市伊勢原町の終末処理場が曾屋に完成（し尿、日量72kl）（ごみ、日量30t）
	8月	市内5農協（本町・南・東・北・大根）が合併
	9月 8日	市議会議員選挙執行（定数30名）
	10月	秦野電報電話局新庁舎が末広町に完成
	〃	秦野市伊勢原町清掃組合の終末処理場操業開始
	〃	国民健康保険、世帯主の7割給付を実施
	11月	南小学校に完全給食を実施し、市内全小学校の完全給食実施完了
	12月	県立平塚技術高等学校秦野分校が設置される

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和39年 (1964年)	1月30日	西小学校に講堂完成
	3月18日	いずみ児童館が今泉に完成
	〃	上方児童館が尾尻に完成
	3月20日	ひばりヶ丘児童館がひばりヶ丘に完成
	5月	秦野電報電話局管内の電話が自動ダイヤル式となる
	6月	水無川上流が水質汚染の恐れがあるとしてキャンプ禁止区域となる
	8月12日	国道246号線（東京－沼津線）が改修完工し開通
	9月29日	米国テキサス州パサデナ市との姉妹都市提携について本市議会で議決
	10月24日	上智大学の秦野進出が決定
	11月17日	米国テキサス州パサデナ市議会において本市との姉妹都市提携について議決
	12月	「新市建設計画再調整計画」を作成
昭和40年 (1965年)	1月 1日	市制施行10周年を迎える
	1月10日	市立弓道場が曽屋に完成
	1月11日	市制施行10周年記念式典を挙げる
	3月 1日	秦野市消防本部及び消防署を設置
	3月 9日	日本専売公社秦野工場（新工場）が完成し、操業開始
	3月17日	4代市長に加藤喜太郎氏就任
	〃	都市計画用途地域を変更、住居地域1,513.9ha、工業地域413.6ha、商業地域51.3ha、準工業地域176.1haとなる
	3月20日	東中学校に体育館完成
	3月25日	県立丹沢大山公園が国定公園に昇格決定
	4月 3日	秦野給食センター営業開始
	4月	都市計画街路堀西羽根線築造工事着工
	〃	「秦野市防災計画」策定
	7月	秦野地区献血推進連絡協議会が発足、献血運動の第1歩をふみ出す
	7月31日	秦野市福祉会館が曽屋一丁目に完成
	10月 1日	第10回国勢調査実施（人口5万7,930人）

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和40年 (1965年)	12月 8日	市重要文化財に東光寺の木造薬師如来立像ほか7点を指定
	12月	本町第1水道六間配水池（2,000m ³ ）完成
昭和41年 (1966年)	3月 1日	西・上農協が秦野市農協と合併し、市内一農協となる
	3月30日	曲松児童館が曲松一丁目に完成
	3月	都市計画街路峯榎戸線が完成
	4月 1日	曲松簡易水道及び渋沢簡易水道を西水道に統合
	5月30日	本市全域が「首都圏近郊整備地帯」に指定される
	5月31日	上公民館が菖蒲に完成
	7月 1日	本町地区に住居表示を実施
	〃	大秦ショッピングセンターが大秦野駅前に営業開始
	7月31日	県立丹沢登山訓練所が三廻部に開設
	9月24日	「出産祝金贈与条例」を制定
昭和42年 (1967年)	3月30日	大根児童館が南矢名に完成
	〃	西幼稚園を開設し、小学校通学区単位に市立幼稚園の完全設置をはかる
	4月	県立平塚技術高等学校秦野分校が独立し、県立秦野技術高等学校となる
	5月 1日	南・西地区に住居表示実施
	6月10日	上智大学秦野キャンパス起工式举行
	9月 3日	市議会議員選挙執行
	9月23日 ～25日	第20回たばこ祭
	1月23日	西秦野電話交換局管内の電話が自動ダイヤル式となる
昭和43年 (1968年)	1月25日	秦野赤十字病院が桜町一丁目に新築完成
	1月	国民健康保険、世帯員の7割給付を実施
	3月25日	渋沢児童館が渋沢に完成
	〃	田原児童館が東田原に完成
	3月28日	市重要文化財に米倉丹後守一族の墓を指定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和43年 (1968年)	3月30日	大根簡易水道を上水道とする
	4月 1日	水道事業に地方公営企業法適用、企業会計方式となる これに伴い建設部水道課を水道局に昇格
	〃	消費生活モニター制度を実施
	7月	西中学校・南小学校にプール完成
	8月 1日	神奈川県人口500万人を突破（秦野市6万3,796人）
	9月 1日	住民基本台帳制度実施
	10月20日	西秦野郵便局が堀西に新築移転
昭和44年 (1969年)	1月 1日	県下で初めて掛金なしの交通災害見舞金制度を実施
	2月 1日	可燃ごみと不燃ごみの2分別収集開始
	2月10日	西中学校に体育館完成
	2月15日	鶴巻児童館が鶴巻に完成
	〃	谷戸児童館が西田原に完成
	3月17日	5代市長に栗原藤次氏就任
	3月31日	大根水道低区配水池（1,000m ³ ）完成
	4月 1日	交通モニター制度の実施
	〃	上幼稚園で2年制保育実施
	7月21日	本町・大根中学校にプール完成
	10月 1日	「市民憲章」を制定
	10月 9日	秦野保健所が曽屋二丁目に新築移転
	10月11日	県立秦野職業訓練所が県立秦野専修職業訓練校と改称
	10月27日	市新庁舎本館が完成、開庁式を行う
	10月	老人80歳以上について国民健康保険10割給付を実施
	11月 1日	集団資源回収を開始
	11月30日	秦野市伊勢原町清掃組合のじん荼焼却場が伊勢原町三ノ宮に完成（日量20t）
昭和45年 (1970年)	1月31日	市制15周年（1月1日）市新庁舎落成記念式典を挙行
	3月25日	「秦野市総合計画」を策定、基本構想について本市議会で議決

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和45年 (1970年)	3月25日	東幼稚園の改築が完成、2年保育を実施
	4月 1日	戸川水道組合が秦野市営水道に移管
	〃	秦野市教育研究所が本町一丁目に開設
	4月18日	横浜地方法務局秦野出張所が曾屋に新築移転
	5月11日	堀山下児童館が堀山下に完成
	5月12日	戸川児童館が戸川に完成
	5月21日	南公民館が今泉に完成
	6月 9日	秦野市都市計画区域を変更
	6月10日	秦野市都市計画市街化区域及び市街化調整区域を決定
	6月13日	本町保育園が本町三丁目に完成
	6月23日	秦野市都市計画区域用途地域を変更
	7月26日	南・東中学校にプール完成
	10月 1日	第11回国勢調査実施（人口7万5,226人）
	10月30日	大根水道拡張工事が終了し、配水能力3,500m ³ 増加
	11月27日	鶴巻電話局（77局）が北矢名に開局
	12月 4日	県立秦野青少年会館が寿町に開館
	12月 9日	図書館が寿町に改築移転
昭和46年 (1971年)	1月16日	秦野市水道統合整備事業（市街化区域内13水道の統合）の工事着工
	2月17日	沼代児童館が沼代新町に完成
	2月26日	平沢児童館が平沢に完成
	2月27日	北小学校に鉄筋3階建ての新校舎完成
	〃	西小学校に鉄筋3階建ての校舎増築
	3月 1日	秦野中央運動公園造成工事着工
	3月27日	秦野市伊勢原町清掃組合が、伊勢原町の市制施行に伴い、秦野市伊勢原市清掃組合と名称変更
	4月 1日	峠隧道改良工事が終わり、幅員6m、2車線に拡幅開通
	6月	東名高速秦野インターチェンジの建設が国土開発幹線自動車道建設審議会で確定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和46年 (1971年)	7月15日	上小学校にプール完成
	7月26日	市重要文化財に宝蓮寺の聖観音菩薩立像ほか7点を指定
	8月18日	秦野中央運動公園整備工事に着工
	8月31日	秦野市伊勢原市清掃組合のごみ処理施設が伊勢原市三ノ宮に完成（日量40t）
	9月 5日	市議会議員選挙執行
	10月 1日	都市計画道路堀西羽根線が開通
	11月26日	北秦野電話局（75局）が菩提に開局
	11月30日	秦野市伊勢原市清掃組合のし尿処理施設が曽屋に完成（日量100kl）
昭和47年 (1972年)	1月15日	秦野市伊勢原市清掃組合の粗大ごみ処理施設が伊勢原市三ノ宮に完成（破碎、8t／5h）（圧縮、12t／5h）
	3月10日	反房配水場が堀山下に完成
	3月25日	秦野商工会議所（鉄筋コンクリート造3階建）が落合に完成
	4月 1日	市の木に「さざんか」、市の花に「なでしこ」を制定
	〃	老人いこいの家「かわじ荘」が八沢に開設
	〃	千村児童館が千村に開館
	〃	寿湘ヶ丘老人ホームが千村に開設
	〃	重度障害者（1級・2級該当者）の医療費が無料となる
	〃	「秦野市廃棄物の処理および清掃に関する条例」改正、ごみ収集地域市内全域となる（収集方法：可燃ごみ週2回・不燃ごみ月1回）
	5月 1日	心身障害者訓練所が寿町に開設
	〃	夜間サービスのための「なでしこ電話」が開設
	5月31日	八幡山配水場が尾尻に完成
	7月25日	堀山下浄水場が堀山下に完成
	9月 1日	市の鳥に「うぐいす」を制定
	9月10日	中央運動公園野球場完成
	9月23日 ～24日	第25回たばこ祭
	9月29日	「鳥もすめる環境都市宣言」が決議される

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和47年 (1972年)	10月15日	鉄道弘済会総合福祉センター弘済学園が南矢名に開設
	12月 1日	ひろはた幼稚園が下大槻に完成
	12月 7日	九沢橋完成（昭和47年7月流失）
	12月15日	本町中学校前人道橋完成
	12月27日	桜土手古墳群（堀山下字塚原六反畑）が市重要文化財に指定
昭和48年 (1973年)	1月 1日	老人いこいの家「ほりかわ荘」が堀川に開設
	〃	70歳以上の老人の医療費が無料となる
	〃	日本専売公社秦野たばこ試験場が解組、同中央研究所農場となる
	3月 4日	6代市長に栗原藤次氏就任
	3月 9日	大根小学校の改築が完成（昭和46年10月29日焼失）
	3月25日	中央運動公園陸上競技場（三種公認・アンツーカー400m）庭球場（6面）が完成
	〃	ひろはた配水場・金井場配水場が完成
	4月 1日	西公民館（鉄筋コンクリート造2階建）が柳町に完成
	〃	北矢名児童館が北矢名に完成
	〃	上智短期大学が上大槻に開校
	〃	県立秦野専修職業訓練校が県立秦野高等職業訓練校と改称
	〃	ごみの収集方法の変更（可燃ごみ週3回、不燃ごみ月1回）
	4月 3日	みどり幼稚園が開園
	6月15日	片町商店街にアーケードが完成
	10月 3日	本町小学校創立100周年記念式典挙行
	12月 1日	「秦野市環境保全条例」施行
	12月 3日	秦野郵便局が河原町に新築移転
	12月25日	都市計画用途地域変更される（住居約595.0ha、第1種住専約589.0ha、第1種住専約619.0ha、商業約29.0ha、近隣商業約48.3ha、工業約175.0ha、工専約195.0ha、準工業約103.0ha）
昭和49年 (1974年)	1月 1日	65歳～69歳の寝たきり老人の医療費が無料となる
	3月 1日	市役所に電子計算機が導入される

235 秦野市の主な記録（続き）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和49年 (1974年)	3月30日	北幼稚園増改築工事完成（鉄筋コンクリート造2階建）
	〃	中央運動公園バレーボール場（4面）、水泳プール（競泳プール・子供プール・幼児プール）が完成
	〃	田頭橋完成
	〃	都市計画道路水無川右岸線・秦野水無川線完成
	〃	秦野市水道統合整備事業の工事完成
	〃	千村配水場完成
	4月 1日	老人いこいの家「くずは荘」が羽根に開設
	〃	国立神奈川療養所が国立療養所神奈川病院と改称
	〃	水道料金改定、加入金制度設けられる
	〃	「秦野市開発指導要綱」改正され、開発区域面積300㎡以上適用対象となる
	4月19日	宝蓮寺（蓑毛）の大日如来坐像が県重要文化財に指定される
	4月30日	西中学校増改築完成（鉄筋コンクリート造4階建）
	〃	東幼稚園増改築完成（鉄筋コンクリート造2階建）
	〃	横野児童館が横野に開館
	6月15日	秦野伊勢原医師会公衆衛生センター（休日診療所）開設
	7月 1日	鶴巻保育園が開園
	8月 1日	消防署西分署が完成し、業務を開始
	9月 4日	「秦野市農業振興地域整備計画」施行
	10月	樹林保全地区11か所、保存樹木10本が指定される
昭和50年 (1975年)	11月	公共下水道整備事業着工（県道平塚秦野線平沢地内）
	1月 1日	秦野市、市制施行20周年を迎える
	1月17日	秦野市の人口が10万人に達する
	4月 1日	広畑小学校、渋沢小学校、すえひろ幼稚園が、それぞれ開校・開園
	4月 3日	老人いこいの家「あずま荘」が寺山に開設
	4月 4日	北公民館が菩提に開館

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和50年 (1975年)	4月15日	斎場の設置及び管理業務を伊勢原市と共同で行うことになり、秦野市伊勢原市清掃組合を秦野市伊勢原市環境衛生組合に名称変更
	4月	柳川児童館が柳川に開館
	7月10日	広畑・渋沢小学校にプール完成
	8月22日	百八松明及び二子塚古墳が市重要文化財に指定
	9月 7日	市議会議員選挙執行
	10月 1日	第12回国勢調査実施（人口10万3663人）
昭和51年 (1976年)	3月 1日	渋沢小学校体育館完成
	3月16日	西幼稚園園舎増築
	3月18日	北小学校の校舎増築
	3月20日	しづさわ幼稚園が開園
	3月27日 ～28日	第1回商工祭
	3月31日	広畑小学校の体育館完成
	〃	老人いこいの家「すえひろ荘」が末広町に開設
	4月20日	心身障害児童集団教育「あすなろ学級」開設
	5月12日	寝たきり老人入浴サービス開始
	5月31日	秦野市伊勢原市環境衛生組合伊勢原清掃工場のごみ処理施設竣工（増設180t、破碎機50t）
	7月10日	県営水道導入
	8月30日	秦野市伊勢原市環境衛生組合の秦野斎場が完成（3炉）
昭和52年 (1977年)	2月11日	市内初の土地区画整理事業として西大竹地区土地区画整理事業が完成
	3月17日	7代市長に栗原藤次氏就任
	3月	『秦野 郷土のあゆみ』刊行
	4月 1日	大根幼稚園が南矢名に新園舎完成
	〃	末広小学校が開校
	〃	消防署大根分署が完成し、業務を開始
	〃	青少年相談室開設

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和52年 (1977年)	4月26日	渋沢駅周辺（中央地区）土地区画整理事業着手
	7月 1日	末広小学校にプール完成
	7月31日	「ミスはだの」に奈良部信子さんが選出
	9月 1日	婦人科健康診断の開始
	9月24日 ～25日	第30回たばこ祭
	10月 1日	民放UHF 秦野テレビ中継放送局開局
	10月12日	第1号子供広報発行
	10月23日	第1回子供祭の開催
	11月26日	秦野工場共同利用事業所竣工式
	12月 1日	福祉電話設置
昭和53年 (1978年)	3月25日	大根・渋沢・西小学校増改築
	3月31日	「秦野市地域防災計画」修正
	4月 1日	広畑保育園、下大槻に開園
	4月12日	秦野市伊勢原市環境衛生組合、霊きゅう自動車運行開始
	4月	広報無線連絡所6か所増設（計13か所）
	6月15日	大秦野駅前連絡所開設
	6月27日	老人いこいの家「すずはり荘」が鈴張町に開設
	6月30日	東名高速インターチェンジの実施計画決まる
	7月 1日	夜間急病人診療開始
	11月 8日	浄水管理センター着工
昭和54年 (1979年)	1月30日	市民文化会館着工
	2月10日	大根小学校の体育館完成
	3月21日	大秦野駅前整備工事着手
	3月26日	南小学校・南中学校改築
	〃	末広児童館が末広町に開館
	3月27日	極楽寺の十一面観音像を市指定重要文化財に指定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和54年 (1979年)	4月 1日	大秦野駅前自転車駐車場開設
	〃	渋沢保育園が渋沢に開園
	4月11日	県道秦野二宮線のうち弘法橋と入船間1.1kmが開通
	4月18日	大根公民館が南矢名に開館
	5月 1日	秦野市清掃事業所が名古屋に移転
	5月19日	北小学校創立100周年記念式典挙行
	5月25日	上幼稚園新築
	7月 1日	中央運動公園に25mプール増設
	7月20日	秦野市生きがい福祉センター開所
	8月 7日	地域防災対策強化地域に指定される
	9月 2日	市議会議員選挙執行
	10月 1日	高齢者生きがい事業団発足
	10月10日	中央運動公園完成、噴水池にシンボル像建立
	10月13日	第1回市民研修会開催
	10月19日	市民の集い開催
	10月31日	東名インターチェンジ建設工事着工
	11月10日	「総合計画後期基本計画」策定のための市民討論会が始まる
	12月10日	秦野市伊勢原市環境衛生組合伊勢原清掃工場の粗大ごみ処理施設竣工（増設、併用施設、日量30t）
	12月15日	大根公民館に大根連絡所を設置
昭和55年 (1980年)	1月18日	本町地区でまちづくり運動始まる
	3月 2日	東地区で地区でまちづくり運動始まる
	4月 1日	ほうらい会館・児童館が曽屋に開館
	〃	ねたきり老人一時入所制度開始
	〃	自主防災組織づくり始まる
	〃	西大竹児童館が西大竹に開館
	4月 5日	中央運動公園野球場にナイター設備完成

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和55年 (1980年)	4月24日	東小学校に体育館完成
	5月15日 ～19日	姉妹都市パサデナ市から公式訪問団が来秦
	7月 1日	市民の日（11月の第1日曜日）を制定
	7月30日	大秦野駅前広場の整備完成
	8月17日	北地区でまちづくり運動始まる
	9月 1日	印鑑制度が変わり、カード方式になる
	10月 1日	第13回国勢調査実施（人口12万3133人）
	11月 1日	文化会館開館
	11月 2日	第1回市民の日
昭和56年 (1981年)	1月 1日	県立秦野南が丘高等学校が南が丘に開校
	1月23日	西地区でまちづくり運動始まる
	2月 4日	浄水管理センターが完成、処理を開始
	2月21日	上地区・大根地区でまちづくり運動始まる
	3月17日	8代市長に栗原藤次氏就任
	〃	南地区でまちづくり運動始まる
	3月31日	市営渋沢住宅の入居開始
	4月17日	秦野駅南部土地区画整理事業着手
	4月20日	本町小学校改築、末広小学校増築、本町・南・上小学校に体育館が完成
	4月22日	太陽熱利用の東公民館が東田原に開館
	4月25日	東名高速道路秦野中井インターチェンジ開通
	6月 1日	大秦野駅前連絡所に婦人職業相談室を開設
	7月11日	「総合計画」策定のための公聴会が開かれる
	7月20日	障害者福祉都市に指定される
	8月 1日	南が丘団地内の東立野公園一般公開
	10月 7日	第1回婦人懇談会開催
	10月13日	「総合計画後期基本計画案」を審議会に諮問

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和56年 (1981年)	11月 1日	第2回市民の日
	11月 2日	大秦野駅前の桜マーケット撤去
	12月13日	栗原藤次市長が任期途中で急逝
	12月24日	故栗原藤次市長の市民葬を挙
昭和57年 (1982年)	1月31日	市長選挙執行、9代市長に柏木幹雄氏就任
	2月 1日	「福祉のための都市環境整備要綱」を施行
	3月30日	ほうらい橋が完成（全長60m、総工費1億6,540万円）
	4月 1日	南が丘小学校・堀川小学校・南が丘中学校開校、みなみがおか幼稚園、ほりかわ幼稚園が開園
	5月 1日	コミュニティー農園を市内6地区に開設
	5月20日	災害時に応急物資などを確保するため、市は各業者と災害時協力協定を締結
	5月29日	市が東海大、上智短大と共同で公開講座を開催
	5月	行財政システムを見直すため、五つの専門部会が検討を開始
	6月 3日	談合防止のために入札制度を改善
	8月	秦野市の人口が13万人を突破
	11月 1日	県湘南地区行政センター秦野連絡所が建築確認申請受付業務を開始
	11月16日	「かながわのまつり50選」に丹沢まつり、たばこ祭が選ばれる
	11月17日	バイオアッセイ研究センターが平沢に完成
昭和58年 (1983年)	1月24日	秦野市と東海大学が提携
	1月	渋沢駅周辺土地区画整理事業による移転工事着工
	2月 1日	老人保健法がスタート、お年寄りの医療が一部有料となる
	4月 1日	心身障害児・者歯科医療対策事業がスタート
	〃	市政資料コーナーを市役所に開設
	〃	TVK秦野中継局が開局
	4月16日	なでしこ運動広場が上大槻にオープン
	4月17日	郷土出身の歌人前田夕暮の生誕100年記念を大根公民館で開催
	4月	鶴巻小学校が開校、つるまきだいの幼稚園が開園

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和58年 (1983年)	4月	秦野市を含む2市5町が、雇用開発促進モデル地域になる
	〃	生け垣設置の際のブロック堀除去にも補助を開始
	6月	市街化区域見直し作業開始
	7月28日	観光協会推奨品に21点
	7月	南が丘小学校でたて穴住居を復元
	8月 8日	午後0時48分、神奈川県西部を震源とした地震が発生、秦野市は震度5
	8月30日	下大槻の二子塚古墳が県指定史跡に
	9月 4日	市議会議員選挙執行
	10月 8日	秦野市伊勢原市環境衛生組合の柵窪最終処分場竣工（58,900m ³ ）
	10月22日	姉妹都市パサデナ市の青年会議所のメンバーが来秦、秦野青年会議所と姉妹提携
	10月	新消防庁舎（曽屋）の建設工事着工
昭和59年 (1984年)	3月16日	秦野橋の拡幅工事が終了し、開通
	4月 1日	渋沢中学校が開校
	〃	使用済み乾電池の回収開始
	〃	公共事業の代替地を登録制にする
	4月17日	向山配水場が完成（容量4,550t）
	4月	歯科の休日救急診療を開始
	5月 1日	総合窓口を開始
	〃	精神薄弱者厚生・授産施設くず葉学園が開園
	6月 6日	秦野市伊勢原市環境衛生組合のし尿処理施設が完成（日量72kl）
	6月17日	第1回丹沢音楽祭を開催
	7月 1日	立野緑地がオープン
	7月27日	前田夕暮の生家跡に記念碑を建立
	9月	鶴巻小学校に非常用飲料水貯水槽が完成
	10月 1日	退職者医療制度がスタート
	〃	渋沢駅一峠間にバスが運行

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和59年 (1984年)	10月23日	秦野たばこ取扱所で最後の買い上げ11月20日には廃作を決定
	10月25日	長野県諏訪市と姉妹都市提携の調印
	〃	消防新庁舎が完成
	10月31日	姉妹都市パサデナ市のテーク小学校と本町小学校が姉妹校提携
	11月18日	大倉尾根に「もみじの道」をつくろうと560本のヤマモミジを植樹、参加者800人
昭和60年 (1985年)	11月19日	末広小学校が全国鳥獣保護実績発表会で文部大臣奨励賞
	1月 1日	市制施行30周年を迎える
	1月 4日	「秦野盆地湧水群」が環境庁から「名水百選」に選ばれる
	2月15日	秦野市伊勢原市環境衛生組合のし尿処理施設竣工（新設、高度処理日量172kl）（更新日量72kl）
	3月 4日	渋沢中学校体育館竣工式
	3月13日	本町小学校南側校舎が半焼
	3月16日	本町幼稚園新園舎竣工式
	3月18日	第34回全国小中学校新聞コンクールにおいて本町中学校が最優秀校に選ばれる
	4月 1日	葛葉大橋利用開始
	〃	尾尻地下道完成し大秦町と尾尻を結ぶ
	〃	建築確認事務が県からの権限移譲により開始される
	〃	「道路後退用地整備要綱」スタート
	4月 6日	人口14万人を突破
	4月11日	東中学校校舎竣工式
	4月13日	南が丘スポーツ広場開放
	4月14日	第2回丹沢音楽祭、諏訪交響楽団も参加
	4月17日	アメニティタウン対象地に選定される
	5月19日	自然観察の森オープン
	5月24日	姉妹都市パサデナ市のセントピーターズ・エピスコパル保育園と広畑保育園が姉妹園提携

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和60年 (1985年)	5月	「菜の花の里」復活
	6月 1日	福祉タクシー制度発足
	7月 1日	小田急線渋沢駅「北口」に臨時改札口が開設される
	7月18日	丹沢に有線電話開通
	7月23日	秦野市伊勢原市環境衛生組合伊勢原清掃工場、新型焼却炉（90 t）が完成
	8月 1日	「秦野市電子計算組織に係る個人情報の保護に関する条例」スタート
	9月19日	「秦野市新総合計画基本構想」議決
	9月26日	秦野市行財政調査会発足
	10月 1日	第14回国勢調査実施（人口14万1,803人）
	10月31日	秦野市伊勢原市環境衛生組合伊勢原清掃工場の新型焼却炉が完成（日量90 t）
	11月 1日	新図書館、平沢にオープン
	11月 3日	第6回市民の日（～4日）、市制施行30周年記念式典開催
	12月22日	第1回秦野青少年音楽祭
昭和61年 (1986年)	1月 8日	ヤナギマツタケ新特産品化へ始動
	1月26日	市長選挙執行
	1月27日	新市長に柏木幹雄氏再選、全国初のキャプテンシステムによる市長選挙開票速報を実施
	2月 6日	秦野で20年ぶりに炭焼き復活
	2月28日	アメニティタウン市民協議会「まほろば秦野」を提言
	3月 3日	北中学校体育館完成式
	3月27日	「平和都市宣言」議決
	4月 1日	家庭用小型合併浄化槽設置奨励補助制度発足
	〃	危険ブロック塀等除却奨励補助制度発足
	4月15日	中央運動公園庭球場ナイター設備オープン
	4月17日	鶴巻・本町中学校の校舎新・改築、北中学校体育館完成
	4月19日	第30回丹沢まつり（～20日、5月5日）
	4月	市内の古道6ヶ所に道標設置

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和61年 (1986年)	8月11日	秦野生きがい福祉センター移転開所式
	10月21日	1986年版民話カレンダーが全国広報コンクールで第1席を受賞
	11月 2日	平和都市宣言祈念碑除幕式
	11月 2日 ～3日	第7回市民の日 キャブテンシステムサービス開始
	12月 1日	「自転車等放置防止条例」スタート
	12月24日	「秦野市21世紀産業プラン策定委員会」発足
昭和62年 (1987年)	3月 4日	鶴巻中学校、体育館竣工式
	3月 9日	小田急線大秦野駅を秦野駅に、大根駅を東海大学前駅に名称変更
	〃	東海大学前駅の自由通路、橋上駅舎完成
	4月 1日	市民活動保険スタート
	〃	市民の日を11月3日に改正
	〃	県立秦野曽屋高等学校が曽屋に開校
	4月24日	本町・大根中学校増改築工事竣工式
	5月10日	丹沢トライアルパークオープン記念大会
	5月30日	河川浄化シンポジウム開催される
	7月19日	中央運動公園の野球場改修工事完成し、一般使用開始
	7月23日	くずは青少年野外センター開設
	7月	みどりのまち県民会議で葛葉川緑地をかながわナショナルトラスト契約第1号として、緑地保全契約を締結
	8月30日	市議会議員選挙執行
	9月26日 ～27日	第40回たばこ祭
	9月26日 ～11月8日	丹沢野外彫刻展開催
	9月30日	秦野中高年齢労働者福祉センター（サンライフ秦野）完成
	10月25日	くずはグリーンフェスティバル開催
	11月6日	姉妹都市パサデナ市のスパークス小学校と西小学校が姉妹校提携

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和63年 (1988年)	2月 1日	秦野市も国土法監視区域の指定を受け、地価上昇に抑制を
	2月18日	渋沢駅周辺（南口工区）土地区画整理事業着手
	3月 6日	北地区で「しだれ桜の里づくり」約500人が集まり水無川河川敷にしだれ桜150本を植樹
	3月20日	水道局が新庁舎へ移転
	〃	秦野市伊勢原市環境衛生組合伊勢原清掃工場の粗大ごみ処理施設竣工（増設、受入貯留設備）
	3月31日	日本たばこ産業秦野工場が小田原工場に統合され、83年の歴史に幕を閉じる
	4月16日	市内で22番目の児童館、堀川児童館がオープン
	4月21日	本町小学校・北中学校の増改築校舎竣工式
	4月24日 ～5月8日	市民グループの手によりこいのぼり160匹が水無川河川敷で遊泳
	4月28日	市の人口が15万人突破
	4月	「葛葉川ふるさと峡谷整備基本構想基本計画」まとまる
	5月29日	第39回「県植樹祭」が菩提のくずは青少年野外センター周辺で開催
	6月 1日	秦野駅前に「秦野なでしこ会館」がオープン、農協ビルの一部を借用したもので、ビル内には秦野駅前連絡所が移転し、歯科の休日診療所も設置
	7月15日 ～17日	海外6劇団とアマチュア市民劇団による「国際人形劇フェスティバル」が文化会館で開催
	7月22日	国民体育大会関東ブロック大会山岳競技の部が丹沢表尾根で開催
	7月	「表丹沢ふれあいの村構想」「21世紀産業プラン」の基本構想まとまる
	8月 6日	秦野テクノパークの造成工事着工
	9月 9日	市役所に交通事故抑止緊急対策本部を設置
	9月20日	たばこ祭中止の決定
	9月	河川浄化映画が完成し、1か月間河川浄化キャンペーンが展開され、各地で座談会などが催される
	10月 5日	たばこ祭に続き「市民の日」行事も中止決定
	10月25日	鶴巻温泉駅南口臨時改札口が朝夕の通勤時間に開設
	11月 3日	第1回はだの子ども野外造形展が開催

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
昭和63年 (1988年)	11月 8日	「諏訪市民号」が来秦、諏訪市民137名を迎えて、交流会等通じて両市民の交流を深める
	11月15日	葛葉川の浄化を目ざして、「葛葉川サミット」が開催
昭和64年 (1989年) 平成元年	1月 7日	元号「昭和」から「平成」へ
	1月22日	放置自転車、リサイクル販売を開始
	3月 1日	まほろば大橋県道橋開通
	3月 8日	名水百選「弘法の清水」汚染の実態を発表
	3月28日 ～31日	まほろば大橋で「89夢のかけ橋彫刻展」開催
	4月 1日	県から青少年会館が移管される
	〃	都市計画税率引下げ
	4月14日	県道秦野二宮線バイパス全線開通
	4月27日	市内のホテル生息地、環境庁の「ふるさといきものの里」に指定される
	5月18日 ～22日	丹沢グリーンフェスティバル、21日には大倉尾根植樹
	6月10日	市の施設、第2・第4土曜日が閉庁日となる
	7月14日	「シビックマート構想」まとまる
	8月23日	特産の冷凍ゆで落花生「うでピー」発売開始
	9月 4日	地下水汚染の実態・調査結果発表
	9月14日	大倉観光レクリエーション広場整備
	10月23日	地下水汚染対策審議会発足
	10月27日	国道246号線、善波トンネル付近の高圧線を撤去し、富士が一望できるようになる
	11月 1日	秦野駅前歩行者専用道完成式
	11月 5日	小田急学会・秦野ふるさと大学開校
	11月21日	曾屋弘法土地区画整理事業組合設立
平成2年 (1990年)	11月	特定保留区域（曾屋の一部）を市街化区域に編入
	1月21日	市長選告示、柏木幹雄氏本市初の無投票で三選

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成2年 (1990年)	1月24日	ログハウス式公衆便所が蓑毛に登場
	2月 4日	上小学校で市内最後の木造校舎のお別れ会
	3月15日	本市の水道、明治23年の給水開始から100年目を迎え、記念式典
	3月23日	自治省の「潤いのあるまちづくり」優良地方公共団体に選ばれる
	4月22日	休日診療所新棟が完成し、外科の休日急患も診療を開始
	4月29日	弘法山でみどりの日「照葉樹の森づくり」が行われる
	5月 8日	夜間、集中豪雨、落雷で9,200世帯が停電
	6月14日	地下水汚染対策審議会が汚染機構の解明調査等について第1次答申
	7月11日	市内初の本格的シティホテルが開業
	9月15日	秦野駅前に観光協会推奨品のれん会名産センターオープン
	9月16日	総合計画次期基本計画に向けて「百人討論会」を実施
	10月 1日	第15回国勢調査実施（人口15万5,620人）
	〃	渋沢一〜三丁目の住居表示スタート
	〃	シルバー人材センター誕生
	〃	測定方法の変更により市域103.62km ² となる
	11月 3日	第11回市民の日に20万人の人出、フィリピン・ゼネラルサントス市からの25人の訪問団も参加
	〃	桜土手古墳展示館オープン
平成3年 (1991年)	11月20日	先端工業団地「秦野テクノパーク」堀山下地区完成式
	11月29日	ブロック塀の倒壊危険度調査の結果発表、18%が危険大
	1月 5日	鶴巻公民館オープン、連絡所も併設
	2月13日	中東湾岸危機市民生活対策本部を設置
	〃	総合計画審議会が「総合計画第二期基本計画案」を答申
	2月23日	文化会館でかながわ森林フェスティバル
	3月10日	西大竹堀川線が開通
	4月 1日	市の組織改革で開発審査課誕生、開発行為等の許可が市の事務になる

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成3年 (1991年)	4月 1日	「総合計画第二期基本計画」スタート
	〃	ごみ問題を地域の問題として捉え、ごみを抑制するゴミニティ構想を打ち出す
	4月 2日	自然観察の森に農家を移築した緑水庵が一般開放
	7月 1日	全国初のペットボトルの分別収集・再生化を市内全域で開始 集団資源回収を登録制とし、奨励金の支給を開始
	7月31日	市自治会連合会が呼び掛け集まった1,900万円が雲仙の被災地へ贈られる
	8月 8日	地下水汚染の実態調査と防水体制の調査報告を発表
	8月20日	上小学校の増改築校舎が完成
	8月26日	東小学校の増改築校舎が完成
	9月 1日	混雑解消のための市役所駐車場の立体化工事完成
	〃	市議選で初の女性議員誕生
	9月19日	台風18号が猛威、鶴巻では54戸が床上浸水、84戸が床下浸水
	10月 1日	防犯灯の維持管理費、全額市の負担に
	〃	市、企業、地元自治会の3者による環境安全協定初の締結
	10月28日	畜産と観光の振興の拠点・めん羊の里オープン
	11月13日	鶴巻北一～三丁目が誕生
平成4年 (1992年)	2月	秦野駅前広場の再整備工事着工
	2月15日	秦野市伊勢原市環境衛生組合の新し尿処理施設竣工式（更新、日量100kl）
	4月21日	下大槻の東開戸遺跡から国内最大級のこはく大珠を発見
	5月 7日 ～12日	姉妹都市パサデナ市から公式訪問団が来秦
	5月10日	全国野鳥保護のつどい記念式典、常陸宮ご夫妻をお迎えして中央運動公園で開催
	5月20日	スペイン語・英語・中国語による外国籍市民のための市民相談開始
	5月28日	市の補助で設置された生け垣が13年目で1万メートルを越える
	6月 1日	看護学生への奨学金制度を新設、募集開始
	7月 1日	平日夜間の内科・外科の急患診療が、休日診療所での定点方式になる

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成4年 (1992年)	7月18日	はだの女性プランの策定記念フォーラムに250人が参加
	8月24日	市の人口16万人突破
	9月 1日	市営薬師原団地1号棟の入居開始
	9月12日	学校週5日制による初の土曜休業日
	9月26日 ～27日	第45回たばこ祭、41万5,000人の人出
	10月17日	南小学校創立100周年記念式典挙行
	10月31日	全国都市緑化かながわフェアで「秦野市の日」
	11月 2日	鶴巻南一～五丁目が誕生
	11月18日	図書館の広域利用サービス開始、平塚・伊勢原・大磯・二宮の公共図書館も利用可能に
	11月30日	蓑毛と大山を結ぶ浅間山林道が開通、第2東名高速・国道246号バイパスの市内通過ルートの概要決まる
	12月 3日	秦野商工会議所と秦野市西商工会が統一と商工会館問題に関する合意書に調印
平成5年 (1993年)	1月 4日	東海大学前駅と南矢名（オレンジヒル）の間にバス路線を開設
	2月17日	渋沢駅が山小屋風の橋上駅舎に、南北の自由通路も完成
	3月25日	秦野市伊勢原市環境衛生組合栗原一般廃棄物最終処分場（第1期）が伊勢原市三ノ宮に完成（25,500m ³ ）
	3月26日	消防署本署に高規格救急車を導入
	4月 1日	消防署南分署が完成、業務を開始
	4月 5日	鶴巻温泉駅から真田経由東海大学までのバス路線を開設
	4月 7日	菖蒲に上公民館が新装オープン
	5月22日	市内回収の牛乳パックなどでトイレトペーパーなどを再生し発売
	5月24日	渋沢駅北口のペDESTリアンデッキが完成
	6月25日	「秦野市地下水汚染の防止及び浄化に関する条例」を可決
	7月 3日	野球場のスタンドなどが一新、Y校と秦高でこけら落とし
	7月12日	北海道南西沖地震発生、被災地奥尻島救護のため本市でも自治会をはじめ市民が募金活動を展開まほろば大橋下でのリバーサイドコンサートに3000人
	8月 8日	図書館前広場で薪能が開かれ2500人の観客が魅了される

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成5年 (1993年)	8月 8日	「はだの福祉プラン」を策定
	9月25日	「秦野市情報の公開及び開示に関する条例」を可決
	9月28日	高齢者医療費助成制度（市単独）がスタート
	10月 1日	大根中学校の体育館改築
	〃	秦野駅前なでしこ会館にパートサテライトはだのがオープン
	〃	市立図書館と東海大学附属図書館の蔵書検索ネットワークを開設
	10月 9日 ～11月28日	秦野市・東海大学提携10周年記念の諸事業を開催
	10月20日	秦野市伊勢原市環境衛生組合秦野斎場の火葬炉完成（増設2炉）
	10月26日	渋沢駅北口広場が完成
	〃	渋沢駅北口に市営駐車場が完成、37台の収容で24時間営業
	11月 1日	東海大学前駅の南側で住居表示、南矢名一～五丁目が誕生
平成6年 (1994年)	1月 1日	「秦野市地下水汚染の防止及び浄化に関する条例」を施行
	1月31日	12代市長に二宮忠夫氏就任
	2月 7日	秦野駅の南側に臨時改札口が開設
	3月 1日	消防署本署に30m級はしご付消防自動車を導入
	3月10日	県央地区8市1町1村の公共図書館で、図書などの相互利用が可能になる
	3月14日	南幼稚園の増改築工事が完成
	5月 5日	水無川砂防環境整備事業の第1期工事完成記念式典
	6月25日 ～7月 3日	姉妹都市提携10周年を記念して、「諏訪市所蔵美術展」を秦野文化会館で開催
	7月 1日	本町地区の片町に24時間利用可能な市営駐車場がオープン
	9月17日	まほろば大橋の約150メートル下流に平成橋が完成
	9月22日	厚生省からクリーン・リサイクルタウンに選定される
	10月25日	秦野市社会福祉協議会が、福祉バスを運行開始
	10月26日	渋沢駅北口広場にハミングデイルをテーマとした三つの彫刻を設置

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成7年 (1995年)	1月 1日	市制施行40周年を迎える
	1月17日	阪神・淡路大震災発生（死者6,425人）
	2月12日	郡市駅伝で初優勝
	3月24日	秦野市西大竹尾尻特定土地地区画整理組合が設立される
	3月28日	北小学校体育館が完成
	3月31日	秦野市伊勢原市環境衛生組合伊勢原清掃工場のごみ処理施設竣工（180t改造）
	4月 1日	市役所西支所を廃止し、西連絡所を設置
	〃	不登校児童・生徒対策として適応指導教室「いずみ」を開設
	〃	秦野商工会議所と秦野市西商工会が合併
	4月12日	渋沢公民館オープン
	6月 6日	葛葉川ふるさと峡谷に「くずはのつり橋」が完成
	6月26日	議員定数減員条例可決（30名から28名に）
	7月 1日	半透明ごみ袋によるごみ収集開始
	7月16日	市制40周年記念事業「宮永岳彦展」秦野市文化会館で開催
	8月 1日	粗大ごみの有料戸別収集開始
	9月 3日	市議会議員選挙、定数削減後初の選挙
	10月 1日	第16回国勢調査実施（人口16万4,722人）
	10月21日	体力づくり優秀組織表彰、市の部で「内閣総理大臣賞」を受賞
	11月12日	新総合計画策定に向け「100人討論会」を開催
	11月20日	総合計画審議会が「秦野市総合計画（仮称）基本構想（案）」について答申
	11月24日	行財政調査会が秦野市の行財政改善について答申
平成8年 (1996年)	2月 1日	「災害時における応急措置についての協定」を神奈川県建設重機協同組合と、その後、（株）エースヘリコプター（4月1日）と締結、生活協同組合コープかながわ（11月15日）とも締結
	2月11日	市町村駅伝で2年連続優勝
	2月15日	総合計画審議会が「秦野市総合計画（仮称）基本計画（案）」について答申
	3月31日	5カ国語による「外国籍市民のための防災ガイド」を作成配布

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成8年 (1996年)	4月 1日	「秦野市総合計画（はだの2010プラン）」により、新年度がスタート
	4月10日	本町公民館オープン
	6月 1日	秦野市総合体育館オープン
	6月 3日	鶴巻温泉駅北口広場完成
	6月25日	東小学校プール完成
	7月19日	第1回秦野市子ども人権委員会をなでしこ会館で開催 いじめ問題について、子どもたちが体験を交えながら話し合った
	8月 1日	地下水中の汚染物質の除去や浄化速度を早める地下水揚水処理、地中還元の実証実験を開始
	8月 5日 ～7日	市内小中学生とその親5組10人による「親子ひろしま訪問団」が、平和祈念式典に出席
	9月 1日	市内3森林組合（東、西、北）が合併し、秦野市森林組合が発足
	9月17日	コンピューター通信網のインターネットに、市の観光情報等を掲載したホームページを開設
	9月27日	「秦野市ごみ散乱防止等に関する条例（ポイ捨て禁止条例）」を制定 （施行は平成9年4月1日から）
	10月 2日	子育てふれあいルーム「ポケット21しづさわ」オープン
	10月26日 ～11月3日	「かながわ都市緑化秦野フェア・グリーンフルはだの'96」開催
	12月13日	秦野駅南北広場を結ぶ自由通路が完成
平成9年 (1997年)	12月14日	新装秦野駅舎使用開始
	1月 4日	秦野駅前連絡所が新秦野駅舎2階へ移転
	3月10日	パソコン通信「まほろばはだのトーク」開局
	4月 1日	リサイクルビンの分別収集開始
	4月16日	南が丘公民館オープン
	4月18日	本市と神奈川県石油商業組合秦野支部及び秦野燃料商組合が「災害時における石油類及び燃料類の供給に関する協定」を締結
	4月21日	本市と市内の7つの知的障害者福祉施設が「災害時における障害者の緊急受入れに関する協定」を締結
	5月14日	まほろば大橋から秦野橋までの都市計画道路「秦野水無川線」が交互通行に
	5月26日	本市と鶴巻温泉旅館組合が「災害時における入浴協力に関する協定」を締結

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成9年 (1997年)	6月 6日 ～20日	市議会第2回定例会、大根・鶴巻地域の下水処理の事務を伊勢原市に委託することなどを可決
	7月 1日	公民館で牛乳パック、白色トレーの拠点回収を開始
	7月10日	文化会館前から総合体育館前までの市道の愛称を「バサデナ通り」とし、ストリートサイン2基と姉妹都市解説モニュメントを設置
	7月11日	北小学校が緑化推進運動功労者として内閣総理大臣賞を受賞
	7月13日	「風の吊り橋」をシンボルにした県立秦野戸川公園が一部開園
	8月 1日	はだの子ども議会開催、子供たちが市民の一人として、いじめ問題を様々な視点からの考えや願いを発表
	9月29日	本市とタクシー業者4社が「災害時におけるタクシー無線通信等の協力に関する協定」を締結
	9月30日	秦野駅北口広場にペDESTリアンデッキが完成
	10月17日	本市と秦野郵便局が「災害時における秦野郵便局と秦野市の協力に関する協定」を締結
	11月 1日	建設省国土地理院の修正により市域の面積103.61平方キロとなる
	11月13日 ～18日	姉妹都市バサデナ市から公式訪問団が来秦
	11月20日	秦野市自治会連合会が自治大臣から表彰
	11月25日	本市と秦野市二輪車安全普及協会バイクレスキューサポート隊が「災害時における情報収集等に関する協定」を締結
	12月18日	野外彫刻や歌碑などをほどこした秦野駅南口広場が完成
	12月24日	都市計画道路「西大竹堀川線」が全線開通
平成10年 (1998年)	1月25日	市長選執行二宮市長再選
	2月26日	大根・鶴巻流域の下水処理について「事務委託に関する協定書」を伊勢原市との間で締結
	3月 1日	公民館や文化会館、体育館などの施設予約システムスタート
	3月26日	「第29回全国バレーボール選抜優勝大会」で秦野南が丘高校男子バレーボール部が準優勝
	3月	秦野市伊勢原市環境衛生組合秦野斎場の増設建物完成（待合2室）
	4月27日	「くずはの家」がオープン
	5月21日	商工会議所新館がオープン

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成10年 (1998年)	6月 1日	渋沢・千村・堀西の一部で住居表示を実施、千村一～五丁目、渋沢上一・二丁目が誕生
	8月10日	秦野市と秦野郵便局・西秦野郵便局が、「道路損傷等の情報提供に関する覚書」を締結
	8月22日	小田急ロマンスカー停車駅に、秦野駅が加わった
	10月 1日	子育てふれあいルーム「ポケット21おおね」オープン
	10月12日	秦野市保健福祉センターがオープン
	10月24日 ～28日	第53回国民体育大会「かながわ・ゆめ国体」秋季大会で卓球・山岳競技を開催
	11月 4日	市内初の老人保健施設「みかん」がオープン
	11月15日	「おおね公園」一部オープン
平成11年 (1999年)	3月19日	秦野市伊勢原市環境衛生組合栗原一般廃棄物最終処分場（第2期）伊勢原市三ノ宮に完成（107,000㎡）
	3月23日	都市計画道路「尾尻諏訪原線」が開通
	4月 1日	生ごみ処理機補助制度の導入（補助率1／2、上限額2万円）
	4月11日	県議会議員・県知事選挙、県議会議員は無投票で久保寺邦夫氏と古谷義幸氏が、県知事には岡崎洋氏が当選
	5月 1日	市営入船住宅の入居開始
	5月15日	上小学校が愛鳥週間全国野鳥保護のつどい環境庁長官賞を受賞
	5月21日	義太夫節浄瑠璃の竹本駒之助さん（本名・上田悦子さん）が重要無形文化財保持者（人間国宝）に選ばれた
	7月 7日	秦野市と市内老人ホーム3施設が「災害時における要援護高齢者の緊急受入れに関する協定」を締結
	8月 1日	秦野伊勢原医師会が介護保険制度の導入を控え、訪問看護、訪問介護、在宅介護支援の3事業をまとめた秦野在宅ケアセンターを設立
	9月 5日	秦野市議会議員選挙
	9月 8日	本町中学校体育館が完成し、竣工式举行
	10月 1日	介護保険要介護認定申請の受け付け開始
	〃	みどり幼稚園の余裕教室を活用し、鈴張保育園が一体化施設として開園
	10月10日	第13回ジャパンカップかながわ・ゆめ国体メモリアル秦野大会が開催され、全国から集まったトップクライマーが超難度のルートに挑戦

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成11年 (1999年)	11月 1月	秦野郵便局の新局舎が室町に完成し、この日から窓口業務を開始
	11月 3日	第20回市民の日を開催
	11月14日	県立秦野戸川公園で水源林フェスティバル'99年50回神奈川県植樹祭が開催され、2,000人の参加者の手によりコナラやヤマボウシなどの苗木が植えられた
	11月15日	ごみと資源物の新しい分別回収が開始（6分別19品目）
	12月	「秦野市まちづくり条制」を制定
平成12年 (2000年)	1月	「秦野市都市マスタープラン」を策定
	2月13日	かながわ駅伝で本市チームが4年ぶり3度目の優勝
	3月29日	北公民館が連絡所を併設し、リニューアルオープン
	4月 1日	良好な環境を保全・創造するための「環境基本条例」と地下水を市民共有の財産「公水」と位置付ける「地下水保全条例」を施行
	〃	介護保険制度がスタート、高齢者の自立を支援する「広畑ふれあいプラザ」がオープンし、6月から保健福祉センターとともにいきがい型デイサービスを開始、また、保健福祉センターに「在宅介護基幹センター」を設置
	〃	「おおね公園」が一部オープン
	4月 7日	南中学校体育館が完成し、竣工式挙行
	4月25日	豊かな自然を生かした新たな観光拠点「田原ふるさと公園」がオープン
	5月 1日	土に触れ、自然に親しめる「表丹沢堀山下ふれあい農園」がオープン
	〃	高齢者が知識や特技を教え、自らが学ぶ「広畑ふれあい塾」が広畑ふれあいプラザで開講
	5月28日	市民参加による演劇「エブリデイ・ザ・まほろば」が文化会館開館20周年を記念し公演
	5月28日	和太鼓で観光振興を図る「観光和太鼓研修会」が発足
	6月28日	本町小学校のプールが完成し、竣工式挙行
	7月 1日	公民館や総合体育館など15施設で通年開館がスタート
	〃	協働のまちづくりを進めるための「まちづくり条例」を施行
	7月19日	秦野赤十字病院、2年後の完成に向け新築移転工事に着手
	9月30日	安全で安心なまちづくりのため「犯罪防止市民総決起大会」を開催、市民300人による大会宣言を採択
	10月 1日	大根、鶴巻、南が丘公民館に図書検索用コンピューターを設置

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成12年 (2000年)	10月 1日	第17回国勢調査実施（人口16万8,142人）
	10月 2日	出前講座「市政ふれあいトーク」がスタート
	〃	仕事と育児の両立を応援する「ファミリー・サポート・センター」がサービスを開始
	〃	子育てふれあいルーム「ポケット21すえひろ」がオープン
	10月12日	市民が無料で使える公共施設巡回バス「フレンド号」を運行
	〃	市民活動推進検討委員会が「市民活動推進に関する提言書」を提出
	10月23日	西公民館が「優良公民館文部大臣表彰」を受賞
	10月25日	東地区安心して住めるまちづくり運動実施委員会がリサイクル推進協議会から、全国表彰を受賞
	11月 1日	文化会館が開館20周年を迎えた
	11月14日	資源分別回収の開始から1年、24%の可燃ごみを削減
	11月21日	老人いこいの家「あずま荘」を増改築、12月からデイサービスを開始
	12月11日	消防署鶴巻分署が完成し、業務を開始
平成13年 (2001年)	1月 1日	弘法山公園内の権現山に公園展望台がオープン
	2月 4日	子ども会育成連絡協議会が結成50周年記念式展を開催
	2月25日	波多野氏一門の館跡などが発見された東田原中丸遺跡の発掘見学会開催
	3月 4日	堀山下調整池を活用した「テクノスポーツ広場」がオープン
	3月24日	景観形成基本計画の策定に向け、魅力ある景観づくりを話し合う「はだのまちづくりフォーラム2001」を開催
	3月31日	神奈川県六市競輪組合が解散
	4月 1日	市民との協働により策定した「総合計画第2期基本計画」がスタート
	〃	男女が共に生きる社会を目指す「男女共同参画プラン」がスタート
	〃	緑を保全・創造するための「みどり条例」を施行
	4月16日	緑風橋が開通
	4月25日	西田原・羽根地区と秦野駅を結ぶ新バス路線が運行開始
	4月26日	森林ふれあい活動の拠点「里山ふれあいセンター」がオープン
	5月 1日	おおね公園多目的広場が全面オープン

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成13年 (2001年)	5月21日	空き店舗を活用した「はだのIT学習館」がオープン
	5月24日	渋沢駅から保健福祉センターを結ぶ無料巡回バス「フレンド2号」が運行開始
	6月27日	鶴巻中継ポンプ場が完成、これにより7月から大根・鶴巻地区公共下水道の一部が供用開始
	7月 1日	県内初の児童センターとして、「曲松児童センター」がオープン
	7月16日	聴覚障害者への情報発信の-new手段として、Eメールとiモードを利用したサービスを開始
	7月18日	西小学校に新体育館が完成
	7月20日	おおね公園に「スケーティング場」がオープン
	7月24日 ～26日	東海大学海洋調査船「望星丸」による「青少年洋上体験研修」を実施
	9月 3日	清掃事業所と公民館で容器包装プラスチック及び古紙、衣類の拠点回収を開始
	9月30日	「はだの市民活動団体連絡協議会」が設立、市内の特定非営利活動法人やボランティア団体など63団体が参加
	10月 1日	小児医療費通院助成を3歳児までに拡大
	10月 2日	観光振興と文化活動の新しい拠点「鶴巻温泉弘法の里湯」と「宮永岳彦記念美術館」がオープン
	10月20日	南が丘地区20周年記念式典を開催
	10月25日	上小学校PTAと上幼稚園父母の会がリサイクル推進協議会から、リサイクル推進協議会会長賞を受賞
	10月31日	中央こども公園がリニューアルオープン
	11月20日	市と秦野郵便局・市内特定郵便局が「市民の健康・安否に係る情報の提供に関する覚書」を締結
	12月21日	老人いこいの家「かわじ荘」を増改築、1月からデイサービスを開始
平成14年 (2002年)	1月11日	市民の健康維持施設「中野健康センター」がオープン
	1月13日	戸川児童館がリニューアルオープン
	1月17日	地震などの災害に備え、地区別防災マップを作成
	1月27日	市長選挙で二宮忠夫氏が三選
	3月 1日	国道246号線新町交差点に平和記念塔を設置
	3月 5日	便利で豊かな生活を目指し、情報化推進計画を策定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成14年 (2002年)	4月 1日	学校完全週5日制がスタート
	〃	生ごみ処理機補助制度の改正（補助率1／2、上限額4万円）
	4月30日	交通バリアフリー基本構想を策定
	5月 1日	電柱のない道路、西大竹八幡山線が開通
	〃	にこにこ保育園が開園
	6月 1日	「知りたい情報を携帯電話で」市の広報紙などの情報を携帯電話のインターネットサービスで配信
	〃	おおね公園に「じゃぶじゃぶ池」などがオープン
	6月 3日	秦野赤十字病院が南が丘地区に移転し、診療をスタート
	7月16日	一人暮らし高齢者などのお宅のごみを戸別収集する「ほほえみ収集」を開始
	7月23日 ～25日	東海大学海洋調査船「望星丸」で、中学生の洋上体験を実施
	8月 5日	住民基本台帳ネットワークシステムがスタート
	8月 7日	21世紀にふさわしい市政と行政サービスを目指し「行財政調査会」を設置
	8月 9日 ～10日	全国高等学校総合文化祭神奈川大会が開催、本市は「日本音楽部門」の会場となる
	9月18日	桜橋が開通
	9月25日	水道局がISO14001を取得
	10月22日	オープンから1年、弘法の里湯の利用者が20万人を突破
	10月29日	湯の沢地区の水道公営化を目指し、松田町と協定を締結（平成15年1月給水開始）
	11月16日	平成17年に迎える市制施行50周年に向け、「市民企画会議」を設置
	11月23日	地元の農産物を提供する「はだのじばさんず」がオープン
	12月19日	おおね公園温水プールがオープン
平成15年 (2003年)	1月24日	秦野市・東海大学提携事業20周年を迎える
	3月 4日	市民共有の財産である地下水を守るため、「地下水総合保全管理計画」を策定
	3月14日 ～23日	おおね公園スポーツとレクリエーションの彫刻展を開催
	3月18日	戸川堰堤、山ノ神堰堤、猿渡堰堤が、市内初の、堰堤としては県内初の登録有形文化財になる
	3月25日	秦野らしい景観を目指して、「景観形成基本計画」を策定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成15年 (2003年)	4月 1日	防災行政無線のテレホンサービスを開始
	〃	生ごみ処理機補助制度における指定協力販売店制度の開始
	4月10日	消防緊急通信指令システムをスタート
	4月13日	県議会議員・県知事選挙、県議会議員には久保寺邦夫氏と安藤慶氏が、県知事には松沢成文氏が当選
	5月 3日	世代を超えた交流の場として、末広ふれあいセンターがオープン
	5月15日	中央運動公園で、「ソーボックスダービー日本グランプリ」が開催される
	6月29日	市民団体の活動を支援するため、市民活動サポートセンターがオープン
	7月 1日	中央運動公園の子供プールがリニューアルオープン
	〃	水道局で24時間転出入の届けができる、音声応答システムが本格稼動
	7月24日	市民と共に考える「行革タウンミーティング」を開催
	7月28日	旧秦野赤十字病院の一部を改修して、市役所西庁舎として利用開始
	8月31日	秦野市議会議員選挙
	9月30日	行財政システムなどの改革案が、行財政調査会から提出される
	9月	小学校の給食の食器が、すべての学校で強化磁器に切り替わる 小・中学校の快適トイレ整備事業が完了、「汚い・臭い・暗い」というイメージを一新
	10月 1日	市の公用車15台を天然ガス自動車に切り替え、燃料を供給する施設（天然ガスステーション）が完成
	〃	十代橋が歩道を設置し開通
	〃	小児医療費助成制度の所得制限を撤廃し、対象者を4歳児まで拡大、高齢者医療費助成の対象を限定
	10月23日	北公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	10月26日	観光和太鼓研修会が、県ジュニアコンクールで優勝
平成16年 (2004年)	11月 1日	雇用・能力開発機構からサンライフ秦野を購入、市立サンライフ鶴巻と名称変更
	11月16日	前田夕暮生誕120周年記念の歌碑を、おおね公園内に建立
	11月22日 ～30日	本町四ツ角周辺において「わいわいはだの市場」を開催
	1月 1日	平成元年に汚染が発覚した「秦野盆地湧水群」の名水復活を宣言

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成16年 (2004年)	2月 1日	インターネットを活用した、公共施設の予約がスタート 電話で24時間行政情報を知ることができる「はだのテレホンガイド」を開始
	3月21日	渋沢駅北口エレベーターが完成 「秦野観光和太鼓」が日本太鼓ジュニアコンクール全国大会で特別賞を受賞
	4月 1日	おおね公園「わんぱく広場」がオープン
	〃	「企業等の立地の促進に関する条例」を施行
	〃	研究推進校として大根・広畑・鶴巻小学校が、2学期制を導入
	〃	生ごみ処理機補助制度の拡充（維持管理費の上乗せ補助の開始等）
	4月11日	日曜日の市税の納税・相談窓口を開設
	4月27日	燃料電池自動車に水素を供給する「秦野水素ステーション」が、堀山下にオープン
	6月 8日 ～23日	「市議会議員の定数を定める条例」を改正し、議員定数を28人から26人に削減
	6月14日	市民が利用しやすい窓口を目指して、市民課が「ISO9001」を取得
	6月15日	鶴巻温泉弘法の里湯の利用者がオープンから約2年8ヵ月で、50万人を突破
	6月29日	環境省の里地里山保全再生モデル地域に選定される（全国で4ヵ所）
	7月22日	IT学習館の閉館後、商業複合施設「まほろば館」がオープン
	7月28日	都市計画道路今泉台線（市道88号線）が、電柱のない道路として開通
	10月 1日	小児医療の通院費助成を、5歳児まで拡大
	10月 4日	ひろはた幼稚園の余裕教室に、広畑保育園を移転し、一体化施設として開園
	10月29日	東公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	11月 6日	秦野高校女子駅伝チームが、県大会で15年ぶり2度目の優勝、全国大会に出場
平成17年 (2005年)	1月 1日	市制施行50周年を迎える
	1月29日	市制施行50周年記念式典を文化会館で開催
	2月25日	堀川公民館がオープン
	4月	「次世代育成支援計画」を策定 「行革推進プラン」まとまる
	4月 1日	秦野警察署が国道246号線沿いの新町に移転 犯罪のないまちを目指して、「安全・安心まちづくり防犯活動推進条例」を施行
	4月 1日	屋外広告物事務の一部が県からの権限移譲により開始される
	4月23日	50周年を記念して、新たに市の木「こぶし」、市の花「あじさい」を追加指定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成17年 (2005年)	4月29日	「丹沢・名水シンポジウム」を開催
	5月 1日	「違法駐車等の防止に関する条例」を施行
	5月19日	「ISO14001」の自己適合宣言をする
	7月 1日	公民館などの施設利用の有料化をスタート
	9月	本町・堀川小学校で給食調理の民間委託をスタート
	9月12日	大韓民国京畿道坡州市との友好都市提携について本市議会で議決
	9月20日	50周年を記念して募集した子どもの歌「With you ありがとう」が完成
	10月 1日	第18回国勢調査実施（人口16万8,317人）
	〃	国民健康保険証が世帯毎から個人のカードになる
	10月20日	友好都市 ^{パジュ} 坡州市代表团が来秦し、友好都市提携
	10月 ～12月	市内4駅周辺で元気をキーワードに「商店街アートフェスティバル」を開催
	10月	南公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	11月19日	50周年を記念して、「波多野氏物語」を開催 全国から波多野氏ゆかりの市や町、村が参加
	11月23日	実朝まつりを開催、迫力の流鏑馬を披露
	11月27日	丹沢賛歌の歌碑を丹沢の山開き式の会場である県立秦野戸川公園に設置
	11月29日	弘法山公園展望台からの富士山の眺望が関東富士見100景に選定される
	12月 4日	50周年を記念して、「はだの丹沢水無川マラソン大会」を開催
	12月 6日	下水道施設の整備や環境保全、環境教育事業などの推進を主な内容とする本市の 「地域再生計画」が国に認められ、認定書を授与された
	12月 8日	みずなし川緑地が国土交通省から手づくり郷土賞の大賞を受賞
	12月16日	はだの都市農業支援センターを設置
平成18年 (2006年)	1月31日	15代市長に古谷義幸氏就任
	2月 1日	今泉湧水池に、今泉名水桜公園がオープン
	4月 1日	「秦野市景観まちづくり条例」を施行
	〃	指定管理者制度を導入し、総合体育館などの管理を民間に委託
	〃	粗大ごみの自己搬入が年中無休（年末年始除く）になる 容器包装プラスチックの収集を月2回から、隔週に変更

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成18年 (2006年)	4月 4日 ～9日	姉妹都市パサデナ市から公式訪問団が来秦
	4月15日 ～16日	第50回秦野丹沢まつりを開催
	4月15日	市の電話が担当課へ直接つながるようにダイヤルインがスタート
	5月15日	子供たちの安全を守るため、消防署員が登校時の声掛け運動を開始
	6月 1日	立野緑地スポーツ広場がオープン
	7月 1日	土・日曜日でも秦野・渋沢駅連絡所と公民館で市税の納付が可能になる 障害福祉に関する「なんでも相談」を開始
	8月 1日	火災や防犯などの緊急情報を携帯電話のメールで配信するサービスを開始
	〃	「広報はだの」に広告掲載を開始
	8月16日	モデル地区における、生ごみの分別収集及び堆肥化の開始
	8月22日 ～9月 5日	「総合計画次基本計画」に向けてタウンミーティングを実施
	8月27日	総合防災訓練を開催、今までの「見て、学ぶ」会場型防災訓練から地域主体のより 実践型訓練へ
	9月 1日	公共施設にAED（自動体外式除細動器）を本格的に設置（計63施設）、 市民への貸し出しも開始
	9月 2日	郷土の歌人、谷鼎の誕生110年を記念して渋沢駅の南口広場に歌碑を設置
	9月 7日	市議会初の女性議長誕生
	9月23日	友好都市坡州市代表団が来秦し、たばこ祭に参加
	10月23日	適応指導教室「いずみ」がなでしこ会館に移転
	10月26日	鶴巻公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	10月30日	市庁舎内に、不動産などの登記事項証明書や会社・法人の印鑑証明書が取得できる 証明書発行請求機を設置
	11月 4日	秦野高校女子駅伝チームが県大会で3年連続の優勝、全国大会に出場
	11月11日	市長と市民の語らいの場「移動市長室」を実施（14日、21日追加実施）
平成19年 (2007年)	11月27日	市議会本会議の様子をインターネットで配信開始
	3月25日	渋沢駅南口広場完成
	3月28日	市と中井町を結ぶ南が丘砂口線（市道81号線）が開通、地域間のつながりを強化し、 今まで以上の交流を目指す
	3月29日	「総合計画第三期基本計画」が本格的にスタート

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成19年 (2007年)	4月 1日	副市長制度を導入、市役所の組織を再編成し、15部67課とする
	4月14日	土曜開庁がスタート
	5月 8日	二宮町、中井町と広域行政推進協議会を設立
	5月13日	運動公園で「ソーブボックスダービー日本グランプリ」が開催される
	7月 1日	表丹沢野外活動センターがオープン
	8月 1日	戸籍住民課で証明書の発行時に無線ブザーでの呼び出しを開始 プライバシー保護と待ち時間の活用を図る
	8月 8日 ～20日	新潟県中越沖地震の避難所運営の支援のため、柏崎市へ市職員と教職員、計16人を派遣
	8月17日	し尿希釈投入施設が浄水管理センター内に完成
	8月26日	市議会議員選挙
	9月 7日	2010年に開催される第61回全国植樹祭が本市と南足柄市で開催されることが決定
	9月 9日	「市救急救命認定施設（救マーク）」の表示制度認定式、公共施設や事業所など87施設を認定
	10月 1日	幼稚園の余裕教室を活用し、すえひろ幼稚園と本町保育園、つるまきだい幼稚園と鶴巻保育園が一体化施設として開園
	10月22日	南が丘公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	11月21日	鶴巻温泉弘法の里湯の利用者がオープンから約6年1か月で、100万人を突破
	12月14日	「市債権の管理等に関する条例」を制定
	12月20日	市役所敷地内にコンビニエンスストアがオープン
平成20年 (2008年)	1月 4日	剪定枝の分別収集及びチップ化の開始
	2月 1日	青少年会館を改修し、子どもたちの交流の場「はだのこども館」がオープン
	2月19日	平成22年春開催の全国植樹祭の開催に向け、市民推進会議の設立総会を開催
	4月 1日	副市長の定数が2人となり、高橋生志雄氏が2人目に就任
	〃	幼稚園と保育園を一つの施設で運営する「こども園」が4園でスタート
	4月13日	中央運動公園で「ソーブボックスダービー日本グランプリ」が開催される
	4月18日	宝蓮寺・大日堂の二王立像が県内最古級の作品と推定され、市の重要文化財に指定
	4月21日	東京都日野市と災害時の相互応援協定を締結

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成20年 (2008年)	5月10日	「第1回秦野市植樹祭」を開催し、「はだの一世紀の森林づくり構想」を発表
	5月27日	静岡県富士宮市と災害時の相互応援協定を締結
	6月 4日	市役所敷地内のコンビニエンスストアで住民票の交付を開始
	8月 5日	北地区と西地区を南北に結ぶ渋沢駅前落合線（市道23号線）が一部開通
	8月15日 ～17日	「秦野市平和の日」に制定記念事業を実施
	9月29日	窓口での証明書の発行時間を短縮するため、戸籍の電算化を開始
	10月 1日	秦野の名水をボトルドウォーター「おいしい秦野の水」として製造・販売
	10月13日	東海大学前駅周辺の整備が完了
	10月28日	大根公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	10月30日	新たな交通手段となるコミュニティタクシーの実証運行を開始
	12月 9日	読み聞かせを通して親子のきずなを深める「ブックスタート」を開始
	12月11日	秦野市農業協同組合が坡州市を訪問し、韓国農協中央会坡州支部と友好提携
平成21年 (2009年)	1月13日	市の人口が17万人突破
	2月17日	東中学校の新体育館が完成、災害時の避難所機能も強化
	2月20日	東海大学前駅連絡所開設、証明書類の発行のほか会議室の貸し出しや消費生活相談なども実施
	4月 1日	地震発生などの緊急情報を防災行政無線で知らせる全国瞬時警報システム（Jアラート）の運用開始
	5月24日	県立秦野戸川公園で開催した第2回市植樹祭・全国植樹祭プレ大会に約2100人が参加
	5月29日	中野橋の架け替え工事が完成
	5月30日	秦野市県人会連合会設立
	6月 2日	中井町と相互応援給水協定を締結
	6月 5日	プレミアム付き商品券「知って得とくはだの生活応援商品券」を市役所、中栄信用金庫や農協などで販売
	7月25日	平成23年度からの新総合計画策定のため、市民一人一人の声を反映させようと「ボイスオブはだの市民会議」を発足 県立秦野戸川公園の「風の吊り橋」をライトアップ
	8月11日	寄付により、本庁舎前に「平和の灯モニュメント」を設置

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成21年 (2009年)	8月20日 ～21日	二宮・中井・大井・松田町の小・中学生と表丹沢野外活動センターで初めての交流キャンプ
	8月30日	登山者遭難救助隊に初の女性隊員が誕生
	9月26日 ～27日	秦野たばこ祭開催、過去10年間で最高の26万5000人の人出
	10月16日	「秦野市公共施設白書 - 持続可能な行政サービスとするために -」を刊行
	10月19日	上公民館が文部科学省の全国優良公民館表彰を受ける、市公民館が7年連続の受賞
	10月30日	姉妹都市パサデナ市から、中学生を含む親善訪問団が来秦（～11月15日） トンプソン中学校と渋沢中学校が姉妹校提携（4日）
	11月 3日	第30回市民の日を開催
	11月 7日	県高校駅伝競走大会女子の部で秦野高校が3年ぶり6回目の優勝
	11月16日	渋沢駅地区と栢窪地区で事前予約型の乗合タクシーの実証運行を開始
	11月18日	駅連絡所の業務時間を、水曜日は午前11時半から午後8時までに変更
	11月28日	新総合計画・新行革プランの策定に合わせて、シンポジウム『地域の自立と連携によるわがまち秦野づくり』を開催
平成22年 (2010年)	1月17日	市長選告示、古谷義幸氏無投票で二選
	3月27日	防災機能を備えた「さかえちょう公園」が完成
	5月23日	天皇皇后両陛下をお迎えし、県立秦野戸川公園で第61回全国植樹祭を開催、全国から3,500人が参加し植樹
	7月 5日	二子塚古墳で銀装圭頭大刀を発見、完全な形での出土は県内初
	10月 1日	第19回国勢調査実施（人口17万145人）
	10月 7日	渋沢駅周辺と北地区を結ぶ都市計画道路、渋沢駅前落合線が開通
	10月25日	鶴巻温泉の掘削工事で、湯泉が湧出（湯温38.8度、毎分約370リットル）
	10月27日	伊勢原清掃工場の老朽化に伴い、新たなごみ焼却施設「クリーンセンター」の工事着工
	11月 2日	友好都市坡州市代表団が来秦、第31回市民の日への参加及び両市の観光協会が友好提携
平成23年 (2011年)	〃	渋沢公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	3月11日	東日本大震災が発生 本市でも停電や断水などが発生し、交通機関の乱れで358人の帰宅困難者が本町公民館などに一時避難

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成23年 (2011年)	3月22日	まちづくりを総合的、計画的に進めるための基本政策などを示した「市総合計画」が完成
	3月28日	清掃事業所に大型生ごみ処理機の導入
	4月 1日	「市屋外広告物条例」を施行
	〃	コミュニティタクシー及び事前予約型乗合タクシーが本格運行
	8月28日	市議会議員選挙
	9月 1日	廃食用油の分別収集の開始
	9月24日 ～25日	秦野たばこ祭開催、さまざまなイベントに約24万人の人出
	10月 3日	上地区の乗合自動車「行け行けぼくらのかみちゃん号」の実証運行スタート
	11月 1日	弘法の里湯が開業10周年を迎え、新たな源泉「つるまき千の湯」を引き込みリニューアルオープン
	〃	つどいの広場「ぼけっと21こども館」オープン
平成24年 (2012年)	11月13日	堀川公民館が「優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞
	4月 2日	上・下水道料金に関する業務を一括して取り扱う「水道局お客様センター」を開設
	10月29日	保健福祉センターに秦野緑郵便局が移転、住民票や印鑑登録証明書などの発行事務を開始
	11月17日	「水のイベント in はだの」を開催
	11月21日	鶴巻地区の浸水を防ぐため整備を進めてきた大根川ポンプ場が完成
平成25年 (2013年)	1月30日	はだのクリーンセンター完成
	3月16日	羽田空港行き高速バスが東名秦野バスストップに停車
	3月24日	寄付により、前田夕暮生誕130年記念の歌碑を桜土手古墳公園内に設置
	4月 1日	県立西部総合職業技術校（かなテクカレッジ西部）が開校
	〃	文化会館東側にカルチャーパーク第1駐車場、中央こども公園にピクニック広場がオープン
	6月26日	友好都市坡州市代表団が来秦、両市の商工会議所が友好提携を行う
	10月1日	つどいの広場「ぼけっと21保健福祉センター」オープン
	10月12日	障害者スポーツフェスティバルを初開催
	10月19日	第19回全国報徳サミット秦野市大会を開催

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成26年 (2014年)	1月19日	市長選挙で古谷義幸氏が三選
	2月19日	秦野赤十字病院と災害時の救護班派遣要請に関する協定を締結
	3月 1日	中央運動公園陸上競技場に全天候型のトラックが完成
	3月26日	東名秦野バスストップ駐車場に大型観光マップを設置
	4月16日 ～21日	パサデナ市との姉妹都市提携50周年を記念して、市民親善訪問団が来秦 提携50周年記念式典を本市文化会館で開催（20日）
	9月 1日	護摩屋敷の水に利用者向け駐車場を整備
	10月 1日	上地区乗合自動車「行け行けぼくらのかみちゃん号」が本格運行
	12月13日	弘法の里湯が累計入館入浴者200万人を突破
	12月23日	市制施行60周年を記念して、渋沢駅でZARDの楽曲「負けないで」「揺れる想い」 の駅メロがスタート
	12月23日	市制施行60周年を記念して、渋沢駅でZARDの楽曲「負けないで」「揺れる想い」 の駅メロがスタート
平成27年 (2015年)	1月 1日	市制施行60周年を迎える
	1月27日	市内全ての防犯灯のLED化が完了
	2月24日	西大竹交差点から新橋交差点まで続く県内一長い桜並木の愛称を「はだの桜みち」に 決定
	2月27日	全小・中学校の普通教室などに空調設備の設置が完了
	4月 1日	子ども・子育て支援新制度による幼保連携型認定こども園として、みどりこども園、 ひろはたこども園、すえひろこども園、つるまきこども園が開園
	〃	秦野市清掃事業所から、施設名を秦野市環境資源センターへ変更
	〃	国土交通省国土地理院の修正により市域の面積103.76㎢となる
	4月 3日	東名秦野バスストップに名古屋・大阪・鳥取行きの夜行高速バスが停車
	7月 4日	映画「じんじん」上映会を開催、市内在住の山田大樹監督と企画・主演の大地康雄 さんが舞台挨拶
	8月 6日	新東名高速道路と市道との連結が許可され、サービスエリアへのスマートインター チェンジの設置が決定
	8月 9日	秦野名水シンポジウムを開催
	8月30日	市議会議員選挙
	9月 1日	弘法の里湯がインターネットサービスプロバイダ「BIGLOBE」の日帰り 温泉アクセスランキングで全国1位となる
	9月17日	東名秦野バスストップに浜松・名古屋行きの夜行高速バスが停車

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成27年 (2015年)	9月22日	秦野駅観光案内所がオープン
	10月 1日	子育て支援センター「ぼけっと21にし」オープン
	〃	東名秦野バスストップに姫路・岡山行きの夜行高速バスが停車
	〃	第20回国勢調査実施(人口16万7,378人)
	10月19日	しぶさわ幼稚園の余裕教室に渋沢保育園を移転し、一体化施設として開園
	10月23日	「秦野名水」のロゴマークを商標登録する
	10月24日	本町幼稚園創立100周年記念式典行われる
	10月25日	秦野消防創立50周年記念式典を開催
	11月 2日 ～3日	坡州市との友好提携10周年を記念して、友好都市坡州市代表团と坡州市伝統芸術団「浩演(ホヨン)」が来秦、第36回市民の日へ参加
	12月18日	環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山(重要里地里山)」に選定
平成28年 (2016年)	2月 1日	「子育てサポートブック」を発行
	2月29日	商店街ガイドブック「メルカHADANO」を発行
	3月 1日	要介護認定業務の一部(申請書の受付、被保険者証の交付等)を民間事業者へ委託
	3月29日	「おいしい秦野の水 丹沢の雫」が、環境省が実施した名水百選選抜総選挙「おいしさが素晴らしい名水」部門で全国第1位に選ばれる
	〃	「行革推進プラン」、「公共施設再配置計画」が一体となった「総合計画HADANO2020 プラン後期基本計画並びに人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
	3月30日	鶴巻温泉弘法の里湯に「足湯」がオープン
	4月 1日	幼保連携型認定こども園として、しぶさわこども園が開園
	〃	下水道事業に地方公営企業法適用、公営企業会計を導入 水道局と下水道部を組織統合し、上下水道局とする
	〃	老人いこいの家「すずはり荘」を鈴張町自治会に移譲
	4月11日	リース方式により、教育庁舎を供用開始
	5月20日	カルチャーパークにバラ園がオープン
	6月 1日	秦野市出身の世界的指揮者、山田和樹氏が文化会館のミュージック・アドバイザーに就任
	7月16日	映画「じんじん秦野編(仮題)」の撮影で秦野たばこ祭を再現、市民応援団約600人が参加し、大地康雄さんや鶴田真由さんなど出演者と共に熱演

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成28年 (2016年)	7月28日	東名秦野バスストップに北陸行きの夜行高速バスが停車
	8月11日	秦野市「山の日」イベントを開催、登山など山にちなんだ感謝イベントに多くの人が訪れる
	8月20日 ～21日	元プロ野球選手24人を招いて宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」を開催、子供への野球教室などで盛り上がる
	10月14日	宮永岳彦記念美術館に「小田急コーナー」を新設
	11月 2日 ～3日	友好都市坡州市代表团が来秦 第37回市民の日へ参加
平成29年 (2017年)	2月 1日	若者夫婦・子育て夫婦向けの市営住宅「ミライエ秦野」がオープン、施設内に市内で7カ所目の「ぼけっと21ミライエ」を開設
	4月 1日	上幼稚園が上小学校内に移転し、市内初の幼小一体施設となる
	5月31日	住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に初参加、参加者が7万9000人を超え、山口県宇部市に勝利
	6月14日	県内初の市消防女性職員チームが県消防救助技術指導会に出場
	6月28日	「宇山商店店舗兼主屋」が国登録有形文化財（建造物）に登録
	10月 1日	秦野名水を利用した「名水はだの富士見の湯」がオープン
	10月 2日	障害者の相談・就労支援や地域の交流を深める施設「ぱれっと・はだの」がオープン
	10月13日	「曽屋水道」が近代水道施設として全国初の国登録記念物（遺跡関係）に登録
	10月27日	「五十嵐商店店舗兼主屋」、「蓑毛大日堂」などが国登録有形文化財（建造物）に登録
	11月23日	第30回「実朝まつり」が東地区で開催、源実朝の800回忌の節目として、さまざまなイベントが行われる
	11月23日	第30回「実朝まつり」が東地区で開催、源実朝の800回忌の節目として、さまざまなイベントが行われる
平成30年 (2018年)	1月31日	18代市長に高橋昌和氏就任
	3月10日	県道708号(秦野大井)篠窪バイパスが開通
	3月16日	市内初のネーミングライツで施設の愛称が決定 4月からカルチャーパーク内の野球場が「中栄信金スタジアム秦野」に、5月から中央子ども公園が「ペコちゃん公園はだの」に
	4月 1日	鶴巻温泉駅連絡所が新たにオープン
	6月26日	鶴巻温泉駅南口広場がオープン
	8月11日	県立秦野戸川公園で「TANZAWA山モリ！フェス2018」開催、2日間で約1万3000人が訪れる 菩提横手遺跡で発見された大型の「中空土偶」を桜土手古墳展示館で初展示
	8月24日	南矢名・下大槻の「東光寺薬師堂山門」を市の重要文化財に指定

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
平成31年 (2019年) 令和元年	4月 1日	秦野駅北口自転車駐車場がリニューアルオープン
	5月 1日	元号「平成」から「令和」へ
	7月 7日	「2019スポーツライミング秦野丹沢カップ」を初開催
	7月28日	消防署西分署がリニューアルオープン
令和2年 (2020年)	10月 1日	ネーミングライツで文化会館が「クアーズテック秦野カルチャーホール」に
	10月 5日	県立秦野戸川公園で「TANZAWA山モリ！フェス2019」開催、2日間で約1万6000人が訪れる
	11月18日	上小学校が、令和2年4月にスタートする「小規模特認校」による児童募集を開始
	2月29日	新型コロナウイルス感染症の流行のため、市が主催するイベントなどの中止を決定
	3月21日	本市出身の落語家・春風亭一左氏が「はだのふるさと大使」に就任
	4月 3日	「旧芦川家住宅主屋（緑水庵）」が、国登録有形文化財（建造物）に登録
	5月 1日	市議会第1回臨時会を開会、感染症対策のため、休業や夜間の営業時間を短縮した事業者を支援する補正予算などを議決
	6月 4日	市議会第2回定例会を開会、緊急医療体制の支援などの感染症対策や地域経済対策の補正予算などを議決
	6月21日	県立秦野戸川公園内に、「はだの丹沢クライミングパーク」がオープン
	8月17日	市議会第2回臨時会を開会、感染症対策の補正予算などを議決
	8月29日	西中学校体育館と西公民館が、地域防災機能を合わせた複合施設としてリニューアル
	9月 1日	「顔晴ろうはだのキャッシュバックキャンペーン」を開始
	10月 1日	第21回国勢調査実施(人口16万2,439人)
	11月 1日	開館40周年を迎えた文化会館で、本市出身の世界的指揮者・山田和樹氏が「はだのふるさと大使」に就任
	〃	桜土手古墳展示館が、秦野の歴史・文化を紹介する「はだの歴史博物館」としてリニューアルオープン
	11月 3日	「顔晴ろうはだのメモリアル打ち上げ花火」を実施
	11月24日	「顔晴ろう市民応援はだのプレミアム商品券」を発行
	12月 1日	緊急情報や行政情報を素早く取得できる市LINE公式アカウントを開設
令和3年 (2021年)	3月26日	「震生湖」が国登録記念物（動物、植物及び地質鉱物関係）に登録
	3月28日	表丹沢の新たな拠点「ヤビツ峠レストハウス」がオープン

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
令和3年 (2021年)	4月 1日	43年ぶりに改定した新たな都市像「水とみどりに生まれ誰もが輝く暮らしよい都市」と共に「総合計画はだの2030プラン」がスタート
	7月23日	本市出身の元女子プロ野球選手、加藤優氏が「はだのふるさと大使」に就任
	8月15日	市平和の日、14日には、平和の灯ともしびをパラリンピック聖火の元火にする採火式を開催
	9月30日	市学校給食センター（はだのっ子キッチン）が完成
	10月 6日	新東名高速道路 IC・SA・SIC の名称が「新秦野インターチェンジ」、「秦野丹沢サービスエリア」、「秦野丹沢スマートインターチェンジ」に決定
	11月 1日	移住お試し住宅「TANZAWA LIFE」がオープン
	12月 1日	中学校完全給食がスタート
令和4年 (2022年)	1月 1日	市議会が通年議会へ移行し、政策提言に向けた検討を開始
	1月23日	市長選挙で高橋昌和氏が再選
	3月10日	弘法の里湯が累計入館入浴者300万人を突破
	3月25日	名古屋の棚田群が農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に認定
	4月 1日	ネーミングライツで、おおね公園が「NITTANパークおおね」に、くずはの広場が「秦野ガス・ネイチャーパークくずは」に
	4月 1日	クアーズテック秦野CH、カルチャーパーク、NITTANパークおおね、はだの丹沢クライミングパークに指定管理者制度を導入
	4月 1日	若者世帯等の市内で新たに住宅を取得する際の費用を助成する「はだの丹沢ライフ応援事業」がスタート
	4月16日	新東名高速道路の新秦野IC～伊勢原大山IC間、秦野丹沢スマートICが開通
	7月 1日	災害情報をリアルタイムに把握できる「市総合防災情報システム」の運用を開始
	8月 1日	表丹沢総合ホームページ「OMOTAN」を公開
	8月19日	東田原の「金剛寺木造阿弥陀三尊立像」を市の重要文化財に指定
	10月 1日	スマートフォンやパソコンからアクセスができる市電子図書館とデジタル版広報はだのがスタート
	10月29日	田原ふるさと公園の農産物直売所が、休憩所を併設してリニューアルオープン
	11月 3日	ねんりんピックかながわ2022が4日間にわたって開催され、カルチャーパークで弓道と軟式野球を実施
	4月 1日	秦野丹沢野外活動センターに指定管理者制度を導入

235 秦野市の主な記録（つづき）

年 号	月 日	主 な こ と が ら
令和5年 (2023年)	4月16日	秦野丹沢まつりを4年ぶりに通常開催、2日間で約5万4000人が訪れる
	5月 1日	さらなる教育水準の改善・向上に取り組むため、「はだのE-L a b」を旧大根幼稚園舎に開設
	5月 6日	本市出身でロックバンド「LUNASEA」のドラマー真矢氏が「はだのふるさと大使」に就任
	5月31日	住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に9万1093人が参加し、参加率アップ賞を受賞
	7月12日	秦野駅周辺のにぎわい創造に向けた社会実験「はだのミライラボ」を開催
	8月 5日	「名水復活宣言」から20周年を迎えることを記念し、記念式典を開催
	9月 1日	「震生湖」が誕生から100年を迎える
	10月25日	葛葉緑地（くずはの広場）が環境省の自然共生サイトに認定
令和6年 (2024年)	4月15日	タッチパネル端末で市の地図情報などが閲覧できる「はだのマップステーション」を開設
	6月23日	姉妹都市提携60周年を記念し、アメリカ合衆国パサデナ市の訪問団と演奏会や交流会を開催
	10月 1日	マイナンバーカードを使ったオンライン申請により各種証明書が自宅で受け取れる「行かない窓口」がスタート
	10月28日	マイナンバーカードを利用し、氏名などを記入せずに申請書が作成できる「書かない窓口」がスタート
	11月 9日	「全国削ろう会秦野大会」を14年ぶりに開催、2日間で約1万5000人が訪れる
	11月23日	緑水庵の駐車場と多目的広場のオープンに伴い、記念式典を実施
	12月 1日	電子地域通貨OMOTANコインがスタート
令和7年 (2025年)	1月 1日	市制施行70周年を迎える
	1月29日	秦野市・伊勢原市共同消防指令センターの運用を開始
	4月 1日	県内初、全国2例目となる「ネイチャーポジティブ自治体」として承認される
	5月31日	MLBで活躍した選手をゲストに迎えたイベントPLAY BALLを開催
	11月 1日	全国報徳サミット秦野市大会を開催
	11月 3日	市制施行70周年記念式典を開催
	11月28日	LUNASEAの楽曲が、秦野駅の列車接近メロディーに

236 秦野市関係50選・100選一覧

I 神奈川県選定

1 かながわの民俗芸能50選（昭和52年度） ささら踊り

江戸時代から明治中期にかけて県内で盛んに踊られた盆踊りを昭和51（1976）年頃再興。市指定無形民俗文化財。平成20（2008）年には、相模のささら踊り7団体の一つとして、県指定無形民俗文化財に指定された。

2 かながわの歌50選（昭和53年度）

- (1) 秦野煙草音頭 新民謡
- (2) 秦野音頭 新民謡

3 かながわの景勝50選（昭和54年度） 弘法山

市内屈指の眺望を誇るビュースポット。春には桜、秋には紅葉と、季節によって様々な景色で人々を楽しませる。

4 かながわの100人（昭和55年度）

- (1) 安居院 庄 七（1789～1863） 農政家。報徳の教えを遠州（静岡県）に広めた。
- (2) 草 山 貞 胤（1823～1905） 神官、農政家。秦野たばこ耕作技術を改良。

5 かながわのむかしばなし50選（昭和56年度）

- (1) 『蓑笠地蔵』
どしゃぶりの雨の中、畑から帰るじいとばあは、途中で雨に濡れるお地蔵様に自分たちの蓑と笠をかぶせてやった。するとその夜、お地蔵様がやって来て…。
- (2) 『古屋のムル』
あばら家に住むおじいさんとおばあさんの話では「古屋のムル」ほど恐ろしいものはないという。「古屋のムル」とは…。

6 かながわのまつり50選（昭和57年度）

- (1) 秦野丹沢まつり
4月、表丹沢の玄関口である県立秦野戸川公園を主会場に開催し、登山者の安全を願い、表丹沢の山開きを祝う祭り。
- (2) 秦野たばこ祭
9月、秦野葉タバコ栽培の情熱を受け継いだ祭りで、弘法の火祭、らんとん巡行など盛りだくさんの催しがある。水無川の大松明の火が灯る光景は圧巻。

7 かながわの史話 100選（昭和58年度）

(1) 実朝暗殺

建保7（1219）年、鶴岡八幡宮で暗殺された鎌倉幕府3代将軍源実朝。その御首塚であると伝えられている塚が東田原にある。

(2) 秦野たばこ

富士山の噴火による土質の変化がもたらした秦野のタバコ栽培は幕末から明治にかけて、江戸や横浜などの都市の需要が増し、秦野町に秦野煙草専売所が置かれたことで飛躍的な発展を遂げた。

(3) 大山もうで

大山は別称を雨降山、阿夫利山ともいい、江戸時代から信仰の対象として庶民に親しまれ、各地からの参詣客でにぎわった。

8 かながわの名木 100選（昭和59年度）

(1) 鶴巻の大ケヤキ（鶴巻南4丁目23）

根元近くから二本に生え出た相生の樹形から縁結びの信仰が生まれ、樹下には小祠も祭られた。古くから地域の人々には「大エノキ」として大変親しまれている巨木である。高さ16m、胸高周囲10m。県指定天然記念物。

(2) 南小学校のソメイヨシノ（今泉699）

校庭の中央にあって、花は校章となり、校歌にも歌われている。高さ9m。市指定天然記念物。

(3) 白山神社のスギ（千村1115）

真っすぐに高く伸び、遠くからもよく見える巨木。高さ42.4m、胸高周囲4.7m。市指定天然記念物。

9 かながわの名産 100選（平成18年度）

(1) 秦野^{はだのたるまだに}達磨風

古くから、五穀豊穡を願って作られており、たんなる角風ではなく達磨型の風で、一時廃絶していたが、近年、愛好者によって甦った。

(2) 秦野のそば

タバコ耕作の裏作として生産され、県内一の産地であり、秦野の良質な水を利用して作られたそばは腰が強く、乾麺、生麺とも人気が高い。

(3) 神奈川の地酒

丹沢水系の良質な水、優れた技術と気候風土によって醸成された手造り地酒。

(4) 相州落花生・うでピー

明治4（1871）年、大磯の渡辺氏が横浜から種を持ち帰り栽培したのが始まりで、タバコ耕作の輪作で大正から昭和にかけて盛んに栽培された。味が濃厚で香りも高く、さや入り、塩南京、砂糖豆等のほか、新鮮な落花生をゆであげた冷凍落花生（うでピー等）として味わうことができる。

(5) 足柄茶

丹沢山麓で多く栽培され、山間地特有の香りがあり、形状がしっかりしている。旨み、

渋みのバランスのとれたお茶として親しまれている。

(6) 八重桜の塩漬け

秦野の千村地区は八重桜の里としても有名で、4月中旬になると花の摘み取り風景があらこちらで見られる。全国で有数の生産地となっており、桜茶の他、あんぱん、和菓子などの材料として使用される。

(7) 神奈川のいちご

昭和32(1957)年、北地区の農家から始まり、昭和38(1963)年からハウス栽培が増え主流となった。11月頃から出荷。良質品として親しまれる。

(8) 神奈川のみかん

県西地域を代表する産物。秦野でも栽培が盛ん。

(9) 湘南のきゅうり

秦野では、タバコ耕作の衰退に伴い選ばれた作物がきゅうりであった。県内市場を中心に回っている。

(10) 湘南のバラ

昭和30(1955)年頃から農業高校を卒業した若い後継者が栽培したのが始まりで、全国的にも生産量が多い。

(11) 神奈川のカーネーション

昭和8(1933)年頃から栽培され、昭和40(1965)年頃から本格的に産地体制が整えられていった。秦野でも栽培が盛んで生産量が多い。

(12) 神奈川のシクラメン

秦野でも栽培が盛んで、消費地に近いため直売が多く、全国的にも生産量が多い。

10 かながわのまちなみ100選(昭和61年度)

(1) 平沢湧水群の里(平沢地区)

すまいのまちなみ。白壁と日本瓦を使った塀と豊富な湧水を利用した豪華な庭づくりの家々が連なり、のどかなまちなみをつくっている。

(2) 文化施設と工場街(堀山下・平沢地区)

しごとのまちなみ。クアーズテック秦野カルチャーホール、秦野市カルチャーパークと緑に囲まれた工場との調和のとれたまちなみ。

(3) 御師(おし)の里(蓑毛地区)

歴史のまちなみ。大山信仰をしのぶ寺社と昔ながらの家々が豊かな自然に溶け込んで静かなたたずまいを見せている。

(4) 鶴巻温泉街(鶴巻地区)

歴史のまちなみ。大山山ろくの南端に大正の中頃から温泉街としてのびてきたまちなみ。

11 かながわの文学100選(昭和62年度) 新田次郎作『風の遺産』

人妻の恋を描いた長編小説。作中に丹沢で沢登りをする場面が出てくる。

1 2 かながわの美林 50 選（昭和 63 年度）

(1) 諸戸山林のスギ・ヒノキ林

県内では屈指のスギ、ヒノキの美林で手入れも行き届き見本林としての価値も高い。

(2) 龍口入の自然観察の森とスギ林

蓑毛の自然観察の森は散策路等が整備され、学習の場、森林浴の場として利用されている。隣接するスギ林はよく手入れをされた 60 年生の美林である。

1 3 かながわの建築物 100 選（平成元年度）

(1) クアーステック秦野カルチャーホール（秦野市文化会館）（平沢 82）

丹沢のふもとの文化の中心地として親しまれている。

(2) 五十嵐商店（本町 2-4-9）

庶民の近代建築「看板建物」の代表として貴重

1 4 かながわの橋 100 選（平成 2 年度） まほろば大橋

秦野駅北口と本町商店街を結ぶ橋。水無川の自然と調和した心やすらぐ橋、ふれあいの橋、憩いとロマンの橋として親しまれている。令和 7（2025）年から、市制施行 70 周年記念事業の一環として、四季やイベントによって演出の異なるライトアップを開始した。

1 5 かながわの探鳥地 50 選（平成 3 年度）

(1) 立野緑地

住宅地に近い斜面がまとまった緑地として残されている。ヒヨドリ、メジロなどの身近な野鳥をじっくり見るのに適している。

(2) 札掛コース

モミ林に囲まれた静かな山あいでもタカが上空を飛び、溪流をカワガラスやヤマセミが行き来する。

(3) 弘法山公園（権現山）

春にはキビタキやオオルリ、秋にはエゾビタキなど四季によって様々な野鳥を観察できる。バードサンクチュアリは県内でも有数の野鳥の水浴びを鑑賞できるスポット。

(4) 震生湖

大正 12（1923）年に発生した関東大震災の影響で、川がせき止められて誕生した小さな湖。水辺には時折カワセミ、カイツブリなどが訪れ、周辺の林からはエナガやイカルの声が聞こえる。令和 3（2021）年 3 月 26 日に国登録記念物に登録された。

1 6 かながわの公園 50 選（平成 4 年度）

(1) 秦野市カルチャーパーク（秦野中央運動公園）

水無川の河川緑地と一体となった高水準の緑地空間。園内には陸上競技場、野球場などの各種運動施設がある。

(2) 桜土手古墳公園

7 世紀後半に造られた円墳が整備保存され、公園になっている。園内には、展示館と保存古墳 6 基、復原古墳 1 基がある。

17 かながわの古道50選（平成5年度） 大山道の蓑毛付近

大山道は大山を中心にほぼ放射状にひろがっているが、秦野方面より大山へ上っていく道を蓑毛道といい、江戸時代まで本道として多くの人に利用された。

18 かながわの花の名所100選（平成6年度）

(1) 弘法山公園のソメイヨシノ

約1万4千本の桜が咲き誇り、山全体が桜色に染まる。桜が満開となる4月上旬は桜まつりで賑わい、多くの観光客が訪れる。

(2) 浄徳院菖蒲園のハナショウブ

杉林と竹林に囲まれた約4,000㎡の園内に、130種、15,000株の花菖蒲が5月下旬～6月上旬にかけて咲き乱れる。

(3) 蓑毛自然観察の森のヤマユリ

約20,000㎡の敷地内に190種もの植物があり、春夏秋冬さまざまな植物を見ることができる。中でも7月～8月にかけて咲くヤマユリは、よい匂いを漂わせる。

19 かながわの博物館50選（平成7年度）

桜土手古墳展示館（現、はだの歴史博物館）

桜土手古墳公園内の一角に、桜土手古墳群や市内遺跡から出土した土器などが展示され、ビデオ等で古墳を詳しく学ぶことができる展示館として、平成2（1990）年11月に開館した。開館30周年を迎えた令和2（2020）年に、考古専門の博物館から郷土の歴史・文化を広く紹介する総合的な歴史博物館として、「はだの歴史博物館」に生まれ変わった。令和7（2025）年から、市制施行70周年記念事業の一環として、所蔵資料をパソコンやスマートフォンで閲覧できる「デジタルミュージアム」の運用を開始した。

II 環境省選定

1 名水百選（昭和59年度） 秦野盆地湧水群

秦野盆地は天然の水がめ。市内には多くの湧水地があり、その清水は古代から人々の暮らしに利用されてきた。

2 ふるさといきものの里（平成元年度） 秦野市ホタル生息地

次々と生息地を奪われるホタルを守るため市民と行政が協力。「ホタル工法」を農業用水路に採用。観察会などの活動も活発。

3 名水百選選抜総選挙（平成27年度） 「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」

「おいしさが素晴らしい名水部門」で、全国第1位に輝いた。

III 国土交通省選定

1 手づくり郷土賞「生活の中にいきる水辺の30選」（平成元年度）

「大賞部門」

（平成17年度）

みずなし川緑地

4月には、川沿いに約1km続く桜並木を見に、多くの花見客が訪れるなど、市民に身近な

水辺として親しまれる。

2 手づくり郷土賞「街灯のある街角30選」（平成2年度）

秦野駅前歩行者専用道

水をモチーフにした街灯は、夜になるとやわらかな光を放ち、秦野駅前を流れる水無川とともに、光と水の織りなすハーモニーを見事に演出している。

3 関東の駅百選（平成10年度）

小田急電鉄秦野駅

丹沢の雄大な自然の山並みに映える美しい輪郭の駅舎で沢筋をイメージした駅。

4 関東乗合バス100選（平成15年度）

秦野駅・名古屋・蓑毛・ヤビツ峠

丹沢表尾根の登山口であるヤビツ峠へ登るルートを走る路線バス。秦野市街をぬけると雄大な相模湾の風景も楽しめる。

5 関東観光バスで行く名所100選（平成15年度）

弘法山

かつて名も知られぬ僧だった弘法様が修行した伝説から、その名がついた山。展望デッキからは、湘南はもちろん晴れた日には東京スカイツリーまで見渡せる抜群の眺望を誇る。

6 関東の富士見100景（平成17年度）

弘法山公園 展望台

市内屈指の眺望スポットで360°大パノラマが楽しめる。房総半島、相模湾、丹沢山塊、そして富士山が一望でき、桜や紅葉との競演で、季節によって様々な景色を堪能できる。

IV 農林水産省選定

1 つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～（ポスト棚田百選）（令和3年度）

名古屋の棚田群

地域の農業者とNPO法人が連携のもと、棚田の維持・保全や「丹沢自然塾」による農業体験、自然体験など都市住民等との交流事業を通じて、生物多様性に富んだ農村の原風景を次世代につなぐ活動を実施している。

V （社）日本公園緑地協会・緑の文明学会選定

1 日本の都市公園100選（平成元年度）

秦野市カルチャーパーク（秦野中央運動公園）

市街地緑化推進の核。園内には陸上競技場をはじめ各種運動施設が整備され、市民の健康づくりの場、憩いとやすらぎの場として親しまれる。

VI 都市公園法施行50周年等記念事業実行委員会選定

1 「日本の歴史公園100選」（平成18年度）

桜土手古墳公園